

# AJCE

# 会報

Association of Japanese Consulting Engineers

Vol.36 No.2



## 特集 FIDIC2012

---

## ソウル大会報告

Autumn 2012

秋

公益社団法人

日本コンサルティング・エンジニア協会

# 倫理要綱

## （協会の目的）

公益社団法人日本コンサルティング・エンジニア協会は、技術に立脚した公正なコンサルティング・サービスを提供する知的専門家（以下「コンサルティング・エンジニア」という。）の品位の確立・技術の向上・国際連携の促進を図り、海外コンサルティング・エンジニアとの技術交流およびその成果の普及に関する事業を行い、コンサルティング・エンジニアの技術の発展と科学技術の振興を通して広く社会に貢献することを目的とする。

## （前文）

第一条 会員が、ここに掲げる目的に沿って活動するように、倫理要綱を定める。

## （社会的な責任の認識）

第二条 会員は、コンサルティング・サービスの成果が広く将来にわたって大きな影響を及ぼすことに鑑み、社会的な責任を強く認識しなければならない。

## （顧客利益の擁護）

第三条 会員は、顧客に対し正当にして最善の利益を図るように努めなければならない。  
二 会員は、顧客の利益に役立つと考えるときは進んで他の専門家と協力するよう努めなければならない。

## （公正の維持）

第四条 会員は、コンサルタントが名誉ある職業であることを自覚し、公正な立場を維持しなければならない。

## （独立性の維持）

第五条 会員の職務上の助言、判断または意思決定は、いかなる場合においても第三者または他の機関の影響を受けてはならない。

## （業務報酬の公正）

第六条 会員の受ける業務報酬は、公正なものでなければならず、顧客より支払われる業務報酬のみを受け取るものとする。

## （専門性の保持）

第七条 会員は、自己の専門分野を明確にしなければならない。  
二 会員は、自己の専門外の事項を表示し、あるいは、自己の誇大な広告をしてはならない。また、専門外の業務を引き受ける等、業務遂行につき確信を持ってない業務に携わってはならない。

## （秘密の保持）

第八条 会員は、業務上知り得た顧客の秘密を他に漏らし、または盗用してはならない。

## （他者の業務の尊重）

第九条 会員は、他の会員あるいは同業者の名誉を傷つけ、またはそれらの業務を妨げるようなことをしてはならない。

平成17年4月12日 第202回理事会制定  
平成24年4月1日 公益社団法人移行に伴い協会名・目的変更

巻頭言

FIDIC と AJCE と コンサルタント

中央開発株式会社 代表取締役社長

AJCE 副会長 瀬古一郎 01

寄稿

2012 年 FIDIC 大会（於、ソウル）に参加して

独立行政法人国際協力機構 経済基盤開発部 部長

三浦和紀 02

ASPAC 理事に再選されて

株式会社建設技術研究所 副社長

ASPAC 理事 前 AJCE 副会長 内村 好 03

**特集：FIDIC 2012 ソウル大会報告**

04

シリーズ・FIDIC 会員協会の紹介 第 9 回

ブラジル協会

Associação Brasileira de Consultores de Engenharia (ABCE)

広報委員会 編 35

シリーズ・海外だより その 11

・・・なアルメニア

OYO インターナショナル株式会社

塩飽孝一 36

倫理委員会

会員企業 CSR インタビュー報告（八千代エンジニアリング株式会社）

倫理委員会 37

技術研修委員会

若手技術者発表会 YP 大賞 若手交流会 AJCE 夜会

AJCE 技術研修委員会 Young Professional 分科会 40

FIDIC セミナー報告

FIDIC Asia-Pacific Contract User's Conference 2012 参加報告  
シンガポール

FIDIC MDB Construction Contract Conference 2012 参加報告  
ブリュッセル

日本工営株式会社 契約管理室長

アジュディケーター委員会副委員長 技術研修委員会副委員長 林 幸伸 44

---

国際活動委員会

Bribery Act 2010 概要

FIDIC News July 2012 抄訳

48

---

訃報

森村武雄氏の逝去を悼む

AJCE 前事務局長 藤江五郎 52

---

事務局報告

53

---

編集後記

55

---

## 巻 頭 言

# FIDIC と AJCE と コンサルタント

中央開発株式会社 代表取締役社長  
AJCE 副会長 瀬 古 一 郎

広報委員長2期を務め、この5月に副会長を拝命し、AJCEの活動に微力ながらも貢献できるよう念じているところである。

### 広報活動

広報活動はご存じのように、

- ① 会報(夏・秋・新年の年3回発行し、会員と国内関係機関へ配布している。)
- ② ニュースレター(毎春発行し、会員・国内関係機関・海外会員協会へ配布している。)
- ③ ホームページ(随時更新し、種々の案内や会報電子版などを掲載し閲覧に供している。)

などの媒体を通じて、国内外の会員から一般の方までを対象に、協会活動の紹介をするものである。多くの会員や政府機関の方々にも読んでもらえるように内容の充実と効率化に努めている。限られた時間と予算の中で、AJCEならではの企画を提供できるように海外出張中の委員にも頭をひねってもらっている最中である。この3年間は「海外展開」をテーマに、若い人も興味をもつような記事づくりを心がけてきた。AJCE会員は、特長のある技術士事務所から多分野を手がける大企業にわたり、業務分野も国土交通、農林水産、経済産業、環境、厚生労働などを網羅し、世界を相手に活躍している。そういったコンサルタントの特質を如何に魅力的に伝え得るのか、広報委員と事務局で頭を抱えながら漸進している感がある。

### FIDIC と AJCE

今回、FIDIC ソウル大会に初めて参加した。日中韓で離島の領有権問題などがあったが、その影響もなく、世界中から1,000人規模のコンサルタントが集って、落ち着いた雰囲気の中で円滑に各セッションが進行した。Beyond Greenをテーマに、Green Growthなどの方向性について討議され、その中で地域活性化、次世代の若手育成、防災などの個別テーマについても議論があった。Greenというテーマについて明確な結論が求められてい

るわけではなく、全会員協会と全コンサルティングエンジニアがそうした問題意識を共有し、FIDICをベースに連携していくという基本的な理解が進んだものと認識している。

AJCEからの参加者数は、中国や地元韓国に次いで多勢であった。世界の会員協会、コンサルティングエンジニアは積極的に海外展開をしており、内需に陰りのある日本でも海外展開の重要性は十分に理解されている。現在は震災復興が急務であるが、一方では相変わらずの過当競争にあるので、既成の枠組みに囚われずに一コンサルタントとして日本を鳥瞰し、世界を俯瞰して志向を広げていくことは重要だろう。

FIDICというプラットフォームから、AJCEやコンサルタントを見つめ直す意義は大きいと思われる。セクターにとらわれずに何らかの正解に近づいて行こうとする場合、片方から見ていただけでは前に進まないこともあるかもしれない。

### コンサルタント

FIDICといえばこれまではデファクトである契約約款のことがまず頭に浮かぶ。FIDICがもっている可能性は、国際学会などとは幾分違った情報や熱気などにもあるかもしれない。我々も国内の延長線で海外展開するのではなく、世界を起点として構想や企画や仕掛けを展開することも一考に値する。世界から刺激を受けるだけでなく、刺激を与えるぐらいに、コンサルタントとしての技術力や成長力を研いていこうとするなら、AJCEとFIDICは大きな力となってくる。

さて、大会期間中1時間半ほど歩いて近代的な都市と悠々たる漢江を散策してきた。ソウルは成田から空路陸路片道3時間の身近な海外である。都市生活の快適さ・安全性などはインフラ整備次第であろうし、持続可能性についての問題意識は世界共通であろう。世界とどう向き合うかというコンサルタントの姿勢も重要と思うのである。



## 寄稿

## 2012年FIDIC大会(於、ソウル)に参加して

独立行政法人国際協力機構 経済基盤開発部 部長  
三浦和紀

## 1. はじめに

FIDIC事務局よりのお声掛けを頂き、本年9月に韓国のソウルで開催されたFIDIC大会に参加させて頂く機会に恵まれ、3日間に亘る大会の初日のビジネスセミナー「Regional and Local Dimensions of Green Economy」においてスピーカーを務めました。今年の大会のメインテーマは「グリーン」。当初はどのような内容でプレゼンをしたものかと思案したのですが、AJCE山下事務局長からのご助言を頂き、Green Economyの普及・推進のためにJICAのような援助機関が果たし得る役割を中心に据えた内容とさせて頂きました。

## 2. FIDICセミナーでの発表をとおして

ビジネスセミナーでは、私の他に韓国輸銀の方、及びアフリカ開発銀行の方がスピーカーを務められ、若干内容的に重複したきらいもありましたが、セッションチェアのキム梨花女子大学教授の機敏なとりまとめもあり、スムーズな進行であったと思います。

一言にGreen Economyの推進といっても、そこにはいろいろなステイクホルダーが存在します。私どもJICAのような二国間援助機関は、政府—私どもの場合は日本政府—が政策として提唱する地球温暖化対策や環境改善の取り組みを、具体的な形としていくために、資金協力・技術協力の面から携わっていくわけですが、このような政策・取り組みが成功裏に実施されるためには、現場における民間企業の参画が欠かせません。特にエンジニアリング・コンサルタントに担って頂くべき役割は大きく、最適な事業計画の立案、適切な入札の枠組みの構築、契約管理・施工管理を通じた工事の適切な実施、等の各段階において、様々な環境配慮の取り組みの最前線に立っていただいています。

世界的に見ればリーマンショック以降の世界経済の停滞、国内を見れば東日本大震災や原子力発電所における事故とその後の電力事情の悪化等もあり、一頃ほど環

境改善や地球温暖化対策といった話題が国内外の関心を集めなくなっている感もありますが、「持続的な開発」は過去20年の開発援助の世界における一貫したテーマであり、環境面での配慮がその中心にあることに疑いの余地はありません。その意味では今回FIDICが「グリーン」をメインテーマに据えて大会を開催したことは、改めてこうした問題の重要性を再認識する機会となり、時宜を得ていたと言えるでしょう。

また、いわゆる業界内部の「内輪」の議論に終始するのではなく、外に向けた前向きのテーマを取り上げ、議論を深めて発信していくという姿勢は素晴らしいと思いました。

## 3. 所感

私は今回、初めてFIDIC大会に参加させて頂きましたが、大会の盛会ぶりに強い印象を受けました。世界数十か国、遠くはアフリカや中南米のような国からの参加もあったことに加え、ホストカントリーである韓国の、文字通り官民あげての対応ぶりはもちろんですが、特に韓国という「地の利」があったからでしょうか、日本からの多数の参加者を凌ぐ中国からの参加者の多さには、目を見張りました。中国政府による周辺国／途上国に対する対外援助の動向や、中国企業による海外における工事については何かと注目を集めるところですが、FIDIC大会のようなフォーラムに積極的に参加し、情報を収集して見識を高め、あるいはネットワークを構築していこうという中国の積極性、勢いを感じたところです。

因みに韓国を訪問したことも今回が初めてでした。滞在は2泊3日と短かったのですが、韓国料理を堪能しました。竹島問題で騒がれていた時期ではありましたが、安全面で不安に感じることもなく、韓国社会の成熟度の高さを感じました。ソウル市内は活気があり、つい20年くらい前までは「援助する側とされる側」の関係であったことが信じられないくらいでした。

## ASPAC 理事に再選されて

株式会社建設技術研究所 副社長

ASPAC 理事 前 AJCE 副会長 内村 好

FIDIC ソウル大会期間中の 2012 年 9 月 11 日に開催された ASPAC 総会において AJCE からの推薦を受けて立候補の結果、選挙によって理事に再選されました。皆様のご支援に感謝するとともに、この機会に ASPAC の概要や活動状況について報告します。

### ASPAC とは

ASPAC (FIDIC Asia-Pacific Member Associations) は FIDIC の地域連合組織の一つで、アジア太平洋地域に属する FIDIC 加盟 21 協会<sup>(※)</sup>から構成されています。

※ Australia Azerbaijan Bangladesh China China-Hong-Kong  
China-Taipei India Indonesia Iran Japan Korea Malaysia  
Nepal New Zealand Pakistan Philippines Singapore Sri Lanka  
Thailand Vietnam Uzbekistan

09 年までの 3 年間 AJCE の廣谷会長(当時)が ASPAC 議長を務め、この間にニュースレターの発刊、HP の開設、セミナーの開催など活動が活性化しました。09 年 FIDIC ロンドン大会で、豪州の Dennis Sheehan 氏が議長に就任し、定款等の整備などが行われました。12 年の FIDIC ソウル大会時に開催された ASPAC 総会において韓国の Kang 氏が新議長に就任しました(任期 3 年)。

現在の理事は下記の 7 名です。

Ho-Ig Kang (Korea) 議長

Amitabha Ghoshal (India) 継続

Liu Luobing (China) 継続

Konomu Uchimura (Japan) 再任

John Chei-Chung Li (China Taipei) 再任

Irawan B. Koesoemo (Indonesia) 新任

Mohd Adnan Mhod. Nor (Malaysia) 新任

ASPAC の理事会や総会は域内で FIDIC 大会が開催される場合にはその際に開催され、域外で開催の場合には別途開催することとされています。12 年 3 月にはスリランカ(コロンボ)で TCDPAP/ FIDIC・ASPAC 会議が開催され、山下事務局長が参加して我が国コンサルタント産業の現状報告を行いました。

### ASPAC の課題と今後

ASPAC は FIDIC のアジア太平洋地域グループであるが、中東から中央アジア、極東、オセアニアに亘る広汎な地域を包含しています。このために理事会等の会議の開催も難しく、多様な文化や言語を有し、政治経済の違いが大きい統一したテーマを共有することが困難となっています。

同一域内には、国連の ESCAP の一環で発足した技術開発プログラムである TCDPAP “Technical Consultancy Development Programme for Asia and the Pacific”: 事務局はインドの CDC) が存在して活発に活動しており、ASPAC と TCDPAP の連携および競合が課題となっています。

また最近はその活動の活性化のために ASPAC に常設の事務局の設置が話題となっていますが、資金面や人的資源の問題、設置場所など解決しなければならない課題が多くあります。

さらに ASPAC 域内にはミャンマー、ラオス、カンボジアなどの東南アジア、モンゴル、タジキスタンなどの中央アジアの多くの FIDIC 未加盟国を抱えており、コンサルタント産業ならびに FIDIC 加盟協会の育成が期待されています。

これらの課題を克服して ASPAC 活動を活性化するために、Kang 新議長のもと開催された理事会において、下記の 3 委員会を設置して、News Letter の定期的発行など情報交換や FIDIC 未加盟国への加盟活動の促進、YP を含むキャパシティビルディングの構築に取り組むこととしました。

Information Committee : 広報委員会

Membership Committee : 会員委員会

Education Committee : 研修委員会

なお 2013 年 3 月にバンコクで TCDPAP / FIDIC・ASPAC 会議が開催される予定となっています。

ASPAC の組織は十分に成熟していませんが、弱点である多様性を強みに変える活動が必要と考えております。私一人では力不足ですが、事務局や会員の皆様の力を借りつつ 3 年間理事としての役割を果たすつもりです。今後ともご支援をお願いいたします。

## 特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

### FIDIC2012 ソウル大会 概要

開催期間：2012年9月10日(月)～12日(水)

会 場：韓国 ソウル

Coex Convention and Exhibition Center

参 加 者：70カ国 約1,200人(日本からは63名参加)

テ ー マ：Beyond Green – New Paradigm



### 特集 目次 ※大会中の各プログラム報告は次頁参照

Summary Report for FIDIC2012 Annual Conference  
Report on FIDIC Executive Committee Meeting  
2012 FIDIC General Assembly Meeting (GAM) in Seoul  
Presidents Meeting  
Business Practice Committee(BPC) Meeting  
Sustainable Development Committee(SDC) Meeting  
Integrity Management Committee(IMC) Meeting  
Capacity Building Committee(CBC) Meeting  
ASPAC Events in Seoul  
FIDIC Young Professional Management Training Program 2012

|                       |       |
|-----------------------|-------|
| FIDIC 大会総括            | 廣瀬典昭  |
| FIDIC 理事会報告           | 廣谷彰彦  |
| 2012年 FIDIC 総会 (ソウル)  | 宮本正史  |
| (各国会員協会) 会長会議         | 廣瀬典昭  |
| 業務実務委員会               | 狩谷 薫  |
| 持続可能な開発に関する委員会        | 春公一郎  |
| 公正管理委員会               | 藏重俊夫  |
| 能力開発委員会               | 武内正博  |
| ソウルにおける ASPAC 行事      | 内村 好  |
| FIDIC YPMTF 2012 参加報告 | 松原ひろみ |

### 【参考】過去の大会開催地とテーマ

| 年    | 開催地                | テーマ                                      |                    |
|------|--------------------|------------------------------------------|--------------------|
| 2011 | ダボス(スイス)           | Local Resources - Global Perspectives    | 地域の資源 世界的な展望       |
| 2010 | ニューデリー(インド)        | Managing Innovation - The Way Forward    | 管理の革新 将来への道        |
| 2009 | ロンドン(イギリス)         | Global challenges -sustainable solutions | 世界の挑戦、持続可能な解決策     |
| 2008 | ケベック(カナダ)          | A strong Industry Serving society        | 社会に貢献する強力な産業       |
| 2007 | シンガポール<br>(シンガポール) | Global services, enhanced partnership    | 世界的なサービス、強化された協力関係 |



**FIDIC2012 ソウル大会 プログラム**

| 時間帯                     | プログラム                                                                                    |                                        | 執筆者   | 掲 載 |
|-------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------|-------|-----|
| Monday, 10 September    |                                                                                          |                                        |       |     |
| 09.00-09.30             | Opening Ceremony                                                                         | オープニングセレモニー                            | —     | —   |
| 09.30-10.00             | Keynote Speech                                                                           | 基調講演                                   | 高橋 秀  | 11  |
| 10.30-10.40             | FIDIC Davos 2011 Action Report                                                           | 2011 ダボス大会報告                           | —     | —   |
| 10.40-12.45             | Plenary Session I<br>The Green Challenge in the Marketplace                              | 全体会議 I<br>市場でのグリーン・チャレンジ               | 藏重俊夫  | 12  |
| 13.45-15.30             | Seminar1<br>Global Challenges and Industry Responses                                     | セミナー1<br>グローバルな挑戦と業界の対応                | 中川 徹  | 13  |
| 13.45-15.30             | Seminar2<br>Green Growth Initiatives                                                     | セミナー2<br>グリーン成長への取り組み                  | 赤坂和俊  | 14  |
| 13.45-15.30             | Seminar3<br>Regional and Local Dimension of Green Economy                                | セミナー3<br>地域及び地方の次元からみたグリーン・エコノミー       | 金井恵一  | 15  |
| 16.00-17.00             | BST Seminar                                                                              | BST セミナー                               | —     | —   |
| 16.00-17.30             | Young Professionals Forum(Plenary)                                                       | 若手技術者による講演                             | 矢上卓也  | 16  |
| Tuesday, 11 September   |                                                                                          |                                        |       |     |
| 09.00-10.30             | Plenary Session II<br>Green Growth-New Perspectives                                      | 全体会議 II<br>グリーン成長-新たな展望                | 狩谷 薫  | 17  |
| 11.00-12.30             | Seminar4<br>Climate Change and Sustainability: New and Emerging Challenges and Solutions | セミナー4<br>気候変動とサステナビリティ                 | 春公一郎  | 18  |
| 11.00-12.30             | Seminar5<br>Sustainable Solutions and Eco-Innovation                                     | セミナー5<br>持続可能な解決法とエコイノベーション            | 武内正博  | 19  |
| 11.00-12.30             | Seminar6<br>Green Growth-New Business Paradigm? (Green Procurement)                      | セミナー6<br>グリーン成長-新しいビジネスのパラダイム (グリーン調達) | 河上英二  | 20  |
| 14.00-15.30             | Future Leaders Workshop                                                                  | 未来のリーダーのワークショップ                        | —     | —   |
| 16.00-17.30             | Focus on Asia Forum<br>Natural Hazard Mitigation                                         | アジアを焦点とした討論会<br>自然災害の軽減                | 藤原直樹  | 21  |
| Wednesday, 12 September |                                                                                          |                                        |       |     |
| 09.00-10.30             | Plenary Session III<br>How to go beyond Green: A Shifting Paradigm                       | 全体会議 III<br>「緑の向こう」への手引き:パラダイムシフト      | 北野知行  | 22  |
| 11.00-12.30             | Seminar7<br>Working Greener and Smarter                                                  | セミナー7<br>環境に優しくよりスマートな取り組み             | 袖川政憲  | 23  |
| 11.00-12.30             | Seminar8<br>Enhancing Capacity and Raising Standards                                     | セミナー8<br>能力強化と水準向上                     | 中村ゆかり | 24  |
| 11.00-12.30             | Seminar9<br>Green Integrity Raising Standards                                            | セミナー9<br>グリーンインテグリティ(グリーンな公正性)         | 田村一郎  | 25  |
| 11.00-12.30             | Seminar10<br>Strengthening Regional and International Dialogues                          | セミナー10<br>地域レベル・国際レベルの対話の強化            | 高田滋人  | 26  |
| 14.00-15.30             | Closing Plenary                                                                          | 最終全体会議                                 | —     | —   |
| 16.00-17.30             | 2012 FIDIC General Assembly Meeting                                                      | 2012 年FIDIC 総会                         | —     | —   |
|                         | Social Event                                                                             | ソーシャルイベント                              | 福島大輔  | 27  |

**FIDIC2012 ソウル大会 AJCE 参加者**

| 番号 | 氏 名      | 会社名                          | 所属 役職                   | FIDIC / AJCE                    |
|----|----------|------------------------------|-------------------------|---------------------------------|
| 1  | 廣谷彰彦     | (株)オリエンタルコンサルタンツ             | 代表取締役会長                 | FIDIC 理事／前AJCE 会長               |
| 2  | サイモンバレット | シモンズ・アンド・シモンズ外国<br>法事務弁護士事務所 | 外国法事務弁護士                |                                 |
| 3  | 石井弓夫     | (株)建設技術研究所                   | 相談役                     | 元FIDIC 理事／元AJCE 会長<br>AJCE 名誉会員 |
| 4  | 内村 好     | (株)建設技術研究所                   | 代表取締役副社長                | ASPAC 理事／前AJCE 副会長              |
| 5  | 金井恵一     | (株)建設技術研究所                   | 執行役員                    | 技術研修副委員長                        |
| 6  | 河上英二     | (株)建設技術研究所                   | 東京本社営業部部長               | 国際活動QBS 分科会長                    |
| 7  | 藤原直樹     | (株)建設技術研究所                   | 東京本社河川部部長               | 政策委員                            |
| 8  | 矢神卓也     | (株)建設技術研究所                   | 水システム部グループリーダー          | 技術研修委員                          |
| 9  | 土井 章     | 国際航業(株)                      | 執行役員海外事業部長              |                                 |
| 10 | 田中 宏     | 田中宏技術士事務所                    | 代表                      | AJCE 理事／技術交流委員長                 |
| 11 | 瀬古一郎     | 中央開発(株)                      | 代表取締役社長                 | AJCE 副会長／広報委員長                  |
| 12 | 田崎忠行     | (株)長大                        | 会長                      |                                 |
| 13 | 亀田 宏     | (株)東京設計事務所                   | 代表取締役社長                 |                                 |
| 14 | 宮本正史     | (株)東京設計事務所                   | 代表取締役副社長                | AJCE 副会長／政策委員長                  |
| 15 | 狩谷 薫     | (株)東京設計事務所                   | 東京支社長                   | FIDIC BPC<br>国際活動副委員長／会員委員      |
| 16 | 田村一郎     | (株)東京設計事務所                   | 東京支社下水道グループ／GM          |                                 |
| 17 | 杉浦弘明     | (株)東京設計事務所                   | 関西支社技術グループ／GM           |                                 |
| 18 | 斎藤 創     | 西村あさひ法律事務所                   | 弁護士                     |                                 |
| 19 | 藏重俊夫     | (株)日水コン                      | 執行役員                    | FIDIC RLC／AJCE 理事<br>国際活動委員長    |
| 20 | 春 公一郎    | (株)日水コン                      | 執行役員                    | FIDIC SDC／政策副委員長<br>国際活動委員会     |
| 21 | 高橋和久     | (株)日水コン                      | 事業化推進室副室長               |                                 |
| 22 | 赤坂和俊     | (株)日水コン                      | 水道事業部東京水道部技術第二課長        | 技術研修YP 分科会長                     |
| 23 | 福島大輔     | (株)日水コン                      | 海外事業部海外業務部              |                                 |
| 24 | 廣瀬典昭     | 日本工営(株)                      | 代表取締役社長                 | AJCE 会長                         |
| 25 | 吉田 保     | 日本工営(株)                      | 取締役専務執行役員               |                                 |
| 26 | 露崎高康     | 日本工営(株)                      | 執行役員                    |                                 |
| 27 | 中川 徹     | 日本工営(株)                      | コンサルタント海外事業本部鉄道部部長      |                                 |
| 28 | 林 幸伸     | 日本工営(株)                      | コンサルタント海外事業本部契約管理室長     | 技術研修副委員長<br>アジュディケーター副委員長       |
| 29 | 鮫島義明     | 日本工営(株)                      | コンサルタント海外事業本部 水環境エネルギー部 | 広報委員                            |
| 30 | 北野知行     | 日本工営(株)                      | コンサルタント海外事業本部都市・物流部副参事  | FIDIC YPF SC／技術研修委員会<br>会員委員会   |
| 31 | 西畑賀夫     | 日本工営(株)                      | グローバル戦略室 室長             |                                 |
| 32 | 黒田武史     | 日本工営(株)                      | グローバル戦略室 課長             |                                 |
| 33 | 七久保充     | 日本工営(株)                      | グローバル戦略室 技師             |                                 |
| 34 | 田中 弘     | 日本工営(株)                      | 執行役員 中央研究所長             |                                 |
| 35 | 高橋 秀     | 日本工営(株)                      | 中央研究所 副所長               |                                 |
| 36 | 一言正之     | 日本工営(株)                      | 中央研究所 研究員               |                                 |
| 37 | 森原百合     | 日本工営(株)                      | 中央研究所 研究員               |                                 |
| 38 | 中村ゆかり    | 日本工営(株)                      | 中央研究所 研究員               |                                 |
| 39 | 碓屋智之     | 日本工営(株)                      | 中央研究所 研究員               |                                 |
| 40 | 早房長雄     | 早房技術士事務所                     | 所長                      | 技術交流委員                          |
| 41 | 森村 潔     | (株)森村設計                      | 代表取締役社長                 | AJCE 副会長／技術研修委員長                |
| 42 | 袖川政憲     | (株)森村設計                      | 環境部マネージャー               | 技術研修委員                          |
| 43 | 水谷貴俊     | (株)森村設計                      | 環境部                     |                                 |
| 44 | 武内正博     | 八千代エンジニアリング(株)               | 国際事業本部副本部長              | FIDIC CBC／国際活動委員                |
| 45 | 高田滋人     | 八千代エンジニアリング(株)               | 国際事業本部業務企画部専門課長         |                                 |
| 46 | 工藤洋靖     | 八千代エンジニアリング(株)               | 国際事業本部社会・経済基盤部主幹        |                                 |
| 47 | 松原ひろみ    | 八千代エンジニアリング(株)               | 国際事業本部 都市環境部            | YPMTP2012                       |
| 48 | 竹村陽一     | 賛助会員                         |                         | 技術研修委員                          |
| 49 | 山下佳彦     | AJCE                         | 事務局長                    | FIDIC CC                        |

## 特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

Summary Report for FIDIC 2012 Annual Conference  
2012年FIDICソウル大会総括日本工営株式会社 代表取締役社長  
AJCE 会長 廣瀬典昭

## 1. 大会の概要

2012年 FIDIC大会は韓国ソウル市の COEX Convention and Exhibition Center(本会議場)で、9月10日から12日までの3日間の日程で開催された。大会に先立ち、9月9日に各国の会員協会の会長会議と事務局長会議が開かれ、その夜、ソウル市内のホテルで Welcome Receptionが開かれた。

今大会は“Beyond Green- New Paradigm”をテーマに、Sustainability(持続性)、Green Procurement、Green Growth、地域連携の強化、Eco-Innovation、Integrity、若手プロフェッショナルフォーラム、能力開発、国際機関との連携強化等、について発表や討論が交わされた。参加者は全体で約70カ国から約1,200名であった。参加人数が多かった国は、中国(約100名)、ナイジェリア(約60名)、カナダと米国(約20名)等であった。日本からは、AJCE会員、家族、その他含めて63名が参加した。

Opening Ceremony は、9月10日9時から本会議場で開催された。開会の挨拶はまず、FIDIC会長の Geoff French氏が2012年大会の趣旨について説明し、続いて韓国協会会長の Hun-Il Moon氏が挨拶し、来賓として知識経済省大臣の挨拶があった。さらに式のパフォーマンスとして韓国の伝統舞踊や太鼓の演技が披露された。続く全体会議では、Peter Guthrie ケンブリッジ大学教授から、新刊「持続的インフラ整備2012報告書」が紹介された。その中で政策決定におけるコンサルタントの関与、リスク、事例を含む持続性評価などが解説された。全体会議に続き、いくつかのテーマに分けたセッションでは特定課題ごとに議論が行われた。

大会初日のセミナー3では、JICA 資金協力支援部三浦和紀部長から Cool Earth Partnership や鳩山イニシアチブをととした地球環境関連事業の実施、気候変動プログラムローンによる制度的枠組みの強化等について話題提供が行われた。

大会2日目に開催された「自然災害の軽減及び防止策」セッションでは、AJCE(狩谷薫氏)が昨年の東日本大震災を教訓に、災害の被害を最小限にする上で、ハード(構造物)のみの対策には限界があり、避難訓練や過去の災害から学んだ英知の伝承など、ソフト面の対策とのバランスが重要であることを報告した。

Young Professionals Forum や FIDIC の地域会員協会連合の ASPAC(アジア・太平洋)、GAMA(アフリカ)、EFCA(ヨーロッパ)、FEPAC(中南米アメリカ)等の会合なども平行して開催され、活発な議論が行われた。若手コンサルタントは、積極的に大会運営や議論に参加し、コンサルタント業界の将来を担う者としての存在感を示しており、大変心強い印象を受けた。

最終日は総会の後、恒例の晩餐会(Gala Dinner Party)が800名を収容する会場で開催された。晩餐会では、参加者が各テーブルの友人を回り、お互いの日常の関心事、事業環境、事業連携の可能性等、時間を忘れて会話を交わし、例年どおりの盛り上がりを見せていた。

## 2. 感想

FIDICでは、ここ数年来、持続性に配慮したインフラ整備、事業の公正性(汚職防止)、品質による技術者の選定、若手コンサルタントの能力開発等に関する話題や議論が展開されている。今年のテーマである“Beyond Green - New Paradigm”においても、この基調は不変であった。

来年は、FIDIC100周年記念大会がスペインのバルセロナで開催される。著名な政治家、国際的なステークホルダー等が講演者の候補に挙がっている。大会では、過去100年を振り返ると共に、今後の100年を展望するプログラムが企画されている。約2,000人の参加者が見込まれており、日本からも多数の参加が期待されている。

特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## Report on FIDIC Executive Committee Meeting FIDIC 理事会報告

株式会社オリエンタルコンサルタンツ 代表取締役会長  
FIDIC 理事 前 AJCE 会長 廣谷 彰彦

日 時：2012年9月7日～8日

議 長：Geoff French、FIDIC 会長

参加人数：12人(会長、副会長、理事7人、専務理事、  
事務局員2人)

### 1. 議事次第(抜粋)

- (1) Welcome, Meeting and Minutes
- (2) Finance and Budgeting
- (3) Subscriptions
- (4) Non-member revenues/activities
- (5) Reports from Committees
- (6) Reviewing progress against Business Plan
- (7) FIDIC Regional Development Plan
- (8) EC links with MAs - discussion
- (9) Conferences
- (10) Communications - discussion
- (11) Regional Groupings
- (12) EC links with other organisations
- (13) Future EC meetings

### 2. 主要な議案から

今回から新理事3人が入り、また新会長の下での会議進行であり、新鮮味があって良かった。半面、退任理事(オーストリア)が半日遅れて来たり、最後にはギャラディナーを出席しないで帰るなど、やる気の無さが目に付いた。会議は相変わらず朝0830始まりで、昼食はほとんど立ったままで、など、時間が詰まっていたうえ、夕方はKENCA招待の晚餐であり、中身が濃い会議であった。会議の内容から、特に話題になった議案などを紹介する。

①財務は順調であり、会員からの会費の全収入に占める割合も約23%程度まで低下した。特に、出版物や、イベントなどからの収入などが好調であるほか、スポンサーからの支援が大きい。貯金分の扱いがやはり課題であり、その内容における通貨の扱いの問題も大きい。スイスフランで運用しているが、為替変動に神経を使っている。

②会費制度の改革は、この5～6年程度、継続して話題にしている。一時期は大幅改定が議論になっていた、その中では、役職員数の申告制度(真面目に申告していない会員協会があるなど)からGDPなどの国力を基にする議論まで、かなり真剣に検討されていた。結局、会費制度委員会を創設し、大幅改定はそのことに伴って派生する課題も多々あり、まとめきれないので、ベースは現制度とし、その一部を小幅に改定することとされ、計算式を分かりやすくすることに精力を注いだ。理事会案は、その後の会長会議、事務局長会議を経て、総会で議決された。

③FIDIC地域センターの創設については、かなりの時間を割いた。FIDIC活動の中で出版やイベントが増えている背景には、FIDIC契約約款がデ・ファクト扱いから、世界銀行他の国際融資期間の正式推奨扱いとなったためであり、特に新興国の技術者を中心にFIDIC約款を勉強して、身に付けなければならないとする需要が高まったことが挙げられる。半面、FIDICが派遣する講師などが、新興国の実情に合わず、高価であるなど、不満が述べられている。そのため、FIDIC本部事務局だけで扱っているコマーシャル部分を切り分けて、これを地域分局的なセンターを立ち上げ、ここに扱いを委譲しては如何か、というのが議論されている。すでに、ヨルダンに中東、北アフリカを対象にするセンター創設が検討されているほか、アフリカ中部、東南・南西アジア、南米などを対象として、センター立ち上げが議論されている。東南・南西アジアでは、インド、韓国、中国などが手を挙げているほか、マレーシアなども検討の対象になっており、近々に実態化しそうである。

④アジュディケーターの増員が課題とされ、日本方式をより拡大する方向で、検討されている。ただし、アジュディケーターの実際の活用は、発注者に委ねられており、活用価格が高いとか、ディスプレイボードを活用しても、最後の段階で関係者の一部でも納得しなければ、アービトレーションに持ち込まれることになっているために、納得が行かないなど、これからの対応に検討の余地が残されている。



特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## 2012 FIDIC General Assembly Meeting (GAM) 2012年FIDIC総会

株式会社TEC インターナショナル 代表取締役社長  
AJCE 副会長 宮本正史

日 時：2012年9月12日(水) 16:00～17:00

開催場所：Room 101/102

日本代表団：廣瀬典昭会長、宮本正史副会長、  
森村潔副会長



左から 森村副会長 宮本副会長 廣瀬会長

FIDIC 総会は例年大会の最後に開催される。大会行事の最後であり、大体においてこの後に Gala Dinner を控えているため、出席者の気もそぞろと言った雰囲気のなかで議事が進められる。多くの議題は大会前に開催される理事会からの動議であり、事前に議題内容の資料が配布されていることもあり、実質的な議論は余程のことがない限り行われぬのが常である。今回もこれまでの例に添って要領よく議事が進行された。

### 1. 議題とその概要

議題もほぼ例年通りであり、その概要は以下の通りであった。

#### 1) French 会長による開会宣言と来賓の紹介

来賓としては会長経験者、J. Boyd 氏、D. Kell 氏、H. Padilla 氏、G. Thomopoulos 氏、の4名が紹介された。

#### 2) 各国代表団の出欠

かなり多数(24ヶ国以上、それ以上は聞き取れず)の欠席があった。

#### 3) 会長挨拶

#### 4) 2011年ダボス総会議事録の承認

#### 5) 2011/2012年次報告書の承認

#### 6) 2011年決算および監査報告書の承認

理事会提案通り承認された。2011年の収支は、収入支出とも約442万スイスフラン(約3.7億円)であった。

#### 7) 新会員協会の承認

新会員協会として、チリー、コロンビア、ペルー、タイの4協会が承認された。コロンビア協会は挨拶とビデオ

紹介を行った。

#### 8) 準会員の承認

準会員として、ドミニカの協会(BG Ingenieros Consultores)が承認された。

#### 9) 会員協会の退会 該当なし

#### 10) 賛助会員の承認

賛助会員として18社(人)が承認された。

#### 11) 定款および規定の変更

FIDICの活動により柔軟性を持たせるため、弁護士の助言を採用し、定款を改訂する(第2条目的の補足説明に追加)ことが承認された。

#### 12) 2013年予算案の承認

理事会の提案通り2013年の予算案が承認された。会員一人当たりの会費は2.95スイスフラン、最低会費は1,900スイスフランとなり、これはいずれも2012年より5%の削減となった。

#### 13) Louis Prangey 賞の授与

Gala Dinnerにおいて上記受賞が発表される。

#### 14) 次期会長の選任

次期会長として、スペインのPablo Bueno氏が承認された。

#### 15) 新理事の選任

新理事として、タンザニアのExaud Mushi氏が承認された。

#### 16) ヤングプロフェッショナル(YP)の報告

2012年トレーニングプログラムを終了したYPが報告された。

#### 17) その他

Moller氏からContract Committeeで新たに2つのタスクフォース(TF)を立ち上げるため、委員候補の募集があった。地下構造物、トンネルに詳しい候補が望ましいとのこと。





## 特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## 2012 ASPAC Events in Seoul 2012年 ソウルにおける ASPAC 行事

株式会社建設技術研究所 副社長  
ASPAC 理事 内村 好

日 時：2012年9月9日&12日理事会、11日総会

### 1. ASPAC 理事会 9日(日) 16:30~18:00

Dennis 議長(豪)のもと韓、日、台、中、印6名の理事によって開催された。コロンボ理事会の報告、各国からの国別報告の概要のあと今後の ASPAC 活動強化のための常設事務局の必要性や事業機会の促進、域内での能力開発(Capacity Building)について議論した。

### 2. ASPAC 総会 11日(火) 17:30~19:00

14ヶ国の代表が出席して2011年ダボス大会での総会の議事録を確認した後、議長からFIDICの8つの活動目標についての取組みやコロンボでの理事会など、この一年間の ASPAC 活動報告がされた。Dennis 議長が退任し後任として韓国の Kang 理事が議長に選出された(任期3年)。その他4名の理事が退任するため選挙結果の開票が行われ、下記の7名が ASPAC 理事となった。

Ho-Ig Kang (Korea) 議長  
Amitabha Ghoshal (India) 継続  
Liu Luobing (China) 継続  
Konomu Uchimura (Japan) 再任  
John Chei-Chung Li (China Taipei) 再任  
Irawan B. Koesoemo (Indonesia) 新任  
Mohd Adnan Mhod. Nor (Malaysia) 新任

### 1 (ASPAC 議長の変遷)

| 2000   | 2001 | 2002 | 2003         | 2004 | 2005 | 2006   | 2007 | 2008 | 2009 | 2010       | 2011 | 2012 | 2013     | 2014 | 2015 |
|--------|------|------|--------------|------|------|--------|------|------|------|------------|------|------|----------|------|------|
| 石井(日本) |      |      |              |      |      |        |      |      |      |            |      |      |          |      |      |
|        |      |      | Ming(シンガポール) |      |      |        |      |      |      |            |      |      |          |      |      |
|        |      |      |              |      |      | 唐谷(日本) |      |      |      |            |      |      |          |      |      |
|        |      |      |              |      |      |        |      |      |      | Sheehan(豪) |      |      |          |      |      |
|        |      |      |              |      |      |        |      |      |      |            |      |      | Kang(韓国) |      |      |

### 3. ASPAC 理事会 12日(水) 8:30~10:00

新任の Kang 議長の下、新理事による第1回の理事会が開催され、下記の3つの委員会を設置して、News Letterの定期的な発行など情報交換、ミャンマー、カンボジアなど東南アジアやタジキスタンなど FIDIC 未加盟国への加盟活動を促進すること、YPを含むキャパシティビルディングに取り組んで ASPAC の活動を強化することした。

Information Committee : Amitabha, Liu  
Membership Committee : Irawan, John  
Education Committee : Konomu, Adnan

(※ASPACの概要については、本会報に別途掲載の「ASPAC 理事に再任されて」も、ご参照下さい)



Irawan Konomu Dennis Adnan Amitabha Enrico  
Konomu Ho-Ig Liu John

## 特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## Keynote Speech: Korea's 4 years of Green Growth Policies: Impacts and Prospects 基調講演：韓国グリーン成長政策の4年：影響と可能性

日本工営株式会社 中央研究所  
副所長 高橋 秀

日 時：2012年9月10日(月) 9：30～10：00

講演者：Soogil Young, Chairman,  
Presidential Committee on Green Growth

### 1. プログラムの概要

韓国政府は、2008年8月に李明博大統領がグリーン成長を今後60年の方針として宣言し、その政策の立案、実施を強力に進めている。基調講演では、①グリーン成長、②最近4年間の成果、③実現のための迅速な基盤づくり、④グリーン成長国家戦略の枠組み、⑤国際社会でのリーダーシップ、⑥エコリッチシティ についての説明がなされた。

#### (1) グリーン成長

気候変動、エネルギー危機、減速する経済成長の3つの危機に直面した韓国は、これらを打開するためグリーン成長を打ち出した。グリーン成長は、経済成長と環境を調和し持続可能な社会を創造する、新しい成長パラダイムである。

#### (2) 最近4カ年のグリーン成長戦略の成果

2008年以降の成果を7項目にまとめている。特に経済効果について注目したので、以下に示す。

上位30企業によるグリーン産業への総投資が2009年～2011年で15兆ウォン(140億US\$、1兆500億円)、年間75%の増加率を記録した。新エネルギー/再生可能エネルギー分野の投資額は、太陽光/熱分野で11倍、風力分野で2倍、燃料電池で24倍増加するなど大幅増となり、企業数が倍増、雇用規模は4倍、売上と輸出の総額は7倍に達した。2008年の世界金融危機に際しては、グリーンニューディール政策(2009年1月)を施行し、2009年～2011年の3年間で56兆ウォンを投入し、75万人の雇用を生み出し、OECD諸国中で最速の景気回復を果たした。一方、この政策に含まれる漢江など4大河川の整備事業は、環境破壊を引き起こしているとの批判がある。

#### (3) 実現のための迅速な基盤づくり

韓国政府は、2009年、政策立案と実施の調整を行う大統領グリーン成長委員会(PCGG)を設立し、グリーン

成長国家戦略と5ヶ年行動計画(2009～2013)を取りまとめ、2010年に「低炭素グリーン成長基本法」を施行した。李大統領は2009年の気候変動締約国会議(COP15、コペンハーゲン)において、2020年までにBaUから30%のGHG削減を目標とすることを宣言した。

#### (4) グリーン成長国家戦略の枠組み

グリーン成長国家戦略の体系は、①ビジョン、②ビジョンを実現するための3つ目的、③10の政策指針から成る。達成目標(Goal)はグリーン経済の成長とGHGの削減である。目的は、①気候変動の緩和及びエネルギーの自立、②経済成長に向けた新たなエンジンの創出、③生活の質の改善及び国際的地位の向上である。

#### (5) 国際社会でのリーダーシップ

韓国政府は主導的な役割を果たしたOECDのグリーン成長宣言(2008年)以降、様々な方法で国際社会をリードしている。この一環として、2010年グローバルグリーン成長研究所(GGGI)を立ち上げ、この国際シンクタンクを通じて途上国に対してグリーン成長政策支援をしている。

#### (6) エコリッチシティ

PCGGは地方自治体間でグリーン化を競わせている。これに参加した110の自治体(エコリッチシティ)においては、生活廃棄物、電力消費量、衛生関連施設、自転車道路整備の項目で好成績であり、都市環境が改善されている。

### 2. 所感

大統領グリーン成長委員会、委員長の講演であり、基調講演として相応しい内容であった。韓国政府が推進する国際社会でリーダーシップをとる方法は、政策実現と継続を促すために有効であると感じた。一方、我が国では今年7月31日に「日本再生戦略」が閣議決定され、11の成長戦略の一つに「グリーン成長戦略」が示されている。しかし、国際社会へのアピールが不十分であれば、優秀な環境技術を有しながら、韓国のブランド戦略に屈し、世界展開において後塵を拝する危惧を抱いた。

## 特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## Plenary Session I The Green Challenge in the Marketplace 全体会議 I 市場でのグリーン・チャレンジ

株式会社日水コン 執行役員

AJCE 理事 国際活動委員会委員長 蔵重俊夫

日 時：2012年9月10日(月) 10:40～12:15

議 長：Geoff French 会長

講演者：Peter Guthrie ケンブリッジ大学教授

Hyo-Seop Woo 韓国建設技術大学長

John Boyd 元 FIDIC 会長

### 1. プログラムの概要

本セッションは、サステナビリティに造詣の深い三人の方からの講演がなされたものである。最初の Peter Guthrie 氏は、State of the World Report 2012 – Sustainable Infrastructure の主執筆者としてレポートの骨子を説明した。次の韓国建設技術大学長 Hyo-Seop Woo 氏はインフラ整備での配慮事項を指摘し、最後の John Boyd 元 FIDIC 会長は、Peter Guthrie 教授の説明への付加的解説として、我々の心構えを示した。

### 2. Peter Guthrie 教授の講演

サステナビリティの概念は、18 世紀末には示唆され、1987 年に国連の「環境と開発に関する世界委員会」において次のように定義された。

“ 持続可能な開発とは、将来の世代が自らのニーズを満たす能力を危険にさらすことなく、現在のニーズを満たす開発である。”

最適な持続可能な開発のためには、現実の制約を受け入れ、リスクを管理し、サステナビリティの導入機会の増大を図り、プロジェクトの早い段階から取り組むことが重要とした。

特に、リスクに関しては、サステナビリティを最小限に留めて当面のリスクを押さえると、結局、クライアントのサービス段階でのリスクの増大に陥る点を指摘した。

また、ツールも重要であり、意志決定支援、CO<sub>2</sub> 排出量算出、サステナビリティのレベル評価などのツールに加え、各種ガイドラインを紹介した。

最後に、コンサルタントこそが、持続可能なインフラ創造の中心的役割を持つべきであり、プロジェクトの実施途中でコンサルタントを変更することはサステナビリティを実現するうえで障害となるとの見解を示した。

### 3. Hyo-Seop Woo 大学長の講演

Woo 氏は、サステナビリティにもとづくインフラ整備におけるモニタリング及びグリーン・テクノロジーの重要性について説明した。

持続可能なインフラ整備においては、モニタリングが決定的に重要である。計画の信頼性を確保するには、計画や設計段階からモニタリングへの十分な備えが必要である。また、モニタリングは、プロジェクトのリスクを減じ、実現性を確固とする役割も有する。

一方、グリーン・テクノロジーは、主に二酸化炭素排出量削減に関する技術であり各種ガイドラインや FIDIC の PSM など、有効な手法が整備されており、新しい排出量算出手法も学術会議等で紹介されている。

### 4. John Boyd 元 FIDIC 会長の講演

Peter Guthrie 教授による State of the World Report 2012 に示されたサステナビリティの実現においては、我々エンジニアが倫理、リーダーシップ、専門的職業の進化の視点からしっかりとした考えを持つことが必要である。

まず、倫理であるが、我々は、約束を果たす代わりにビジネスの資格が与えられる。その約束の一環として、プロジェクトの影響をクライアントに伝達し、広く一般社会に技術的事項を説明することが求められているのである。

リーダーシップについては、革新を目指す発明者としての像から遠く離れており、信頼されるアドバイザーとしての社会的信頼を得ていないのが現状である。

専門的職業としては、今日のニーズにこたえつつも、明日の社会を保全するよう進化していくことが必要とされる。

我々が直面する課題は、革新的発明者としてサステナビリティを強力に推進する技術開発を進め、サステナビリティを支持しないクライアントやプロジェクトを拒否するような倫理を身につけることであると、これこそが、業界から評価を得る道であると締めくくった。

以上

## 特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

Seminar 1 Global Challenges and Industry Responses  
セミナー1 グローバルな挑戦と業界の対応日本工営株式会社  
鉄道技術部長 中川 徹

日 時：2012年9月10日(月) 13:45～15:30

議 長：Gregs Thomopoulos (USA)

講演者：Richard Korman (USA), Yoon Hee Hong (Korea)

## 1. プログラムの概要

議長から、本プログラムは、Sustainability へのグローバルな挑戦に伴うリスク・損失や機会について検討し、業界として取り得るアクションを見出すことを目的とするとの説明があり、2人の講演者が発表を行った。

Korman氏は、ENR.com、ENR RiskReviewの編集者であり、Sustainabilityやグリーンデザインがもたらすリスクや紛争について講演した。講演の要旨は以下の通りである。

ある法律・紛争情報誌にグリーン建設に関する論文が1編しか応募されなかったことから、技術者、弁護士、保険会社に困惑があることが現れている。地球温暖化が指摘されて以降、世界の環境への取り組みが少しずつ進み、1999年にWorld Green Building Councilが設立された。環境を考えて窓を大きくした建物が治安リスクを増したとして契約が解除され、設計者が訴えられるなど、グリーンデザインに対するリスクが顕在化している。グリーンインフラの基準(IgCCなど)がいろいろな国の政府・自治体で採用され、グリーンプロジェクトは増加している。それに伴い紛争も増えると予想され、そのような訴訟をLEED (Leadership in Energy and Environmental Design) から、LEEDigationと呼んでいる。しかし、その数はまだ多くないのが現状である。世界経済悪化、訴訟の経済的利点の不足、グリーン関連紛争の水面下実施の傾向、協力精神で進められるグリーンデザインの特性、等が要因と考える。

技術者としては、義務を果たすことに尽力し、報酬等の費用をきちんと請求し、不合理な期待や保証を負うことのないよう監視し、実証されていない材料やシステムに警戒することが肝要である。ガンジーは、急いで列車に乗った際に片方のサンダルを線路に落としたが、す

ぐさもう片方のサンダルを線路に投げたという。リスクマネジメントの参考となるであろう。

Hong氏は、SK E&Cの副社長であり、同社のグリーン技術のエンジニアリングと工事への適用について講演した。概要を以下に示す。

韓国の建設産業界は、グリーン技術に取り組み、交通インフラ、住宅、商業施設等においてCO<sub>2</sub>排出量を削減してきた。設計、調達、工事、O&M、廃棄までのライフサイクルで環境影響を最小にする必要があり、そのためには、計画初期段階のFront End Engineering Designを適切に実施することが重要である。また、エネルギー削減量を大きくするとともにコスト増加を小さくする最適化が求められる。成功例のLEED Platinum Projectでは、エネルギーの40%削減、CO<sub>2</sub>排出量の36%削減を達成した。

最後に、議長は、欠席したChan氏(香港)に代わり、グローバルな挑戦においてConsulting Engineer業界が直面する事項、すなわち、多様化する役割、政府の内製化、エネルギー開発と消費削減の需要増加、高齢化と世代交代、サービスのコモディティ化等について述べた。

質疑応答では、いくつかの発展途上国の参加者から、基礎インフラが不十分な状況においてグリーンインフラに投資することやライフサイクルコストで政府を説得する困難さが述べられ、グリーン技術やノウハウの共有化の可能性、教育施設の整備、発展段階に応じた開発といった課題が議論された。また、韓国が増加コストを容認してグリーンインフラに投資する利益の考え方についての議論もあった。

## 2. 所感

グリーンプロジェクトは、実績の少ない技術が使われるという観点でリスクが高く、技術者として十分な注意が必要であることは、非常に参考になった。



## 特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

Seminar 2 Green Growth Initiatives  
セミナー2 グリーン成長への取り組み株式会社日水コン 水道事業部東京水道技術第二課  
技術研修委員会Y P分科会 赤坂和俊

日 時：2012年9月10日(月) 13:45～15:30

議 長：Bisher Jardaneh (ヨルダン)

講演者：Moncef Ziani (モロッコ)、Prof Robert Cochrane (UK)、Prof Heekyung Park (韓国)

## 1. セミナーの概要

本セミナーの概要は以下のとおりである。

## 2. モロッコにおける持続可能な発展のためのグリーンプログラム

モロッコでは、持続可能な発展に関する国家戦略プログラムが策定されており、概要は以下に示すとおりである。

- ・再生エネルギーを現況の12%(2010年)→42%(2020年)にすることを開発目標にしている。対象の発電施設は太陽光と風力である。
- ・サニテーションプログラム(2006-2020)は、都市域の下水道人口普及率を80%に、汚水処理の割合を60%にすることを目標としている。
- ・廃棄物の再生プログラムは、100%収集とその20%再利用(2015年)を目標としている。
- ・大量輸送システム開発は、消費電力等の削減を目標とし、都市域でのトラムを2012年までに建設し、都市間を結ぶ高速鉄道(HST)を2015年までに320km建設予定である。

## 3. イギリスにおけるリソースの有効活用による持続可能な成長：輸送における可能性

グリーン成長の観点から、リソースの有効活用が重要であり、革新的な技術の進歩と既存技術の斬新な改良が必要であると言える。

しかし、この50年間でエンジニアが生み出した輸送効率に関する実質的な改善は、高速化、信頼性及び快適性の向上である。

また、UK政府は、車の運転時間を減らすことが、運転手や車ビジネスにとって有益であると考え、高速道路での最高速度を時速70mphから80mphにあげることを提案している。しかし、UKでは1回の運転で50マイルを越えるものはわずか2%で、これらの運転に対する所要時間の節約は5分以下である。対して、燃料消費量は15%上昇する。さらに、高速道路での死亡事故は、現代の安全基準の車でさえ約2%上昇する可能性がある(どこが有益なのだろう?)。

持続可能なグリーン成長には、汚染や二酸化炭素排出に関する目的を達成するための、更なる技術開発とその優先的な活用が必要である。

残念ながら、グリーン成長は政府の強いリーダーシップとより厳しい規制などが必要であることを、これまでの経験が示している。

## 4. 開発途上経済のための段階的なグリーン成長

世界的な気候変動は、途上国における既存の開発すべき問題(人、経済、水、環境悪化)を悪化させている。グリーン成長は、気候変動、経済及び人の発展、特に途上国の経済に対して最も効果的な枠組みになりうると考えている。

グリーン成長の原則は、以下のとおりである。

- ・原則1：保存(保全)、リユース/リサイクル。
- ・原則2：再生エネルギーの活用、グリーン交通、スマートテクノロジー、グリーンな建設・土地利用・計画。
- ・主なコンセプト：リソースの効果的な最大化、最小で最大の効果を発揮するための生産。

現実的に言って、途上国のグリーン成長は貧困である。低炭素開発は先進国の話であり、低所得国に適用するものではない。

途上国におけるグリーン成長は、価格が手ごろであること等を含むローカルの状況を考慮することが極めて重大である。



## 特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

Seminar 3 Regional and Local Dimensions of Green Economy  
セミナー3 地域および地方の次元からみたグリーン・エコノミー株式会社建設技術研究所 執行役員経営企画部長  
技術研修委員会副委員長 金井恵一

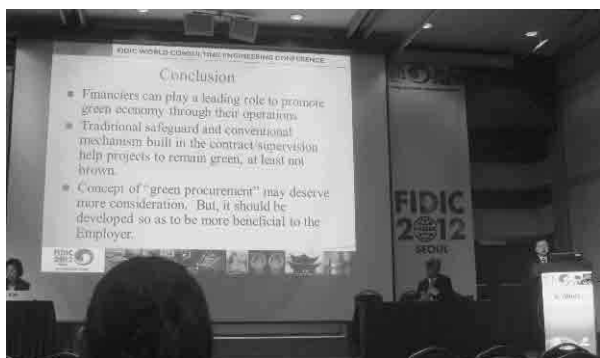
日 時：2012年9月10日(月) 13:45～15:30

議 長：Dr. Eun Mee Kim (梨花女子大学教授)

講 師：三浦和紀氏 (JICA)

Mr. Chang Ho Jung (Korea Eximbank)

Mr. Yao Wotter (AfDB)



JICA・三浦氏の講演の様子

初日の午後、「セミナー3」は国際的資金供給・援助に関わる3機関から講師を迎え、韓国の梨花女子大学のEun Mee Kim教授を議長として開催された。当初予定されていたアジア開発銀行から急遽、アフリカ開発銀行に講師が変更となったため、Wotter氏の講演は、アフリカ開銀の役割・業務紹介にとどまった。そのため本稿ではJICAの三浦氏と韓国EximbankのChang Ho Jung氏の講演内容を紹介する。

## 1. 資金供給者はどこまでグリーンになれるか

最初の講演は、JICAの三浦和紀氏が、「資金供給者は、どこまでグリーンになれるか」と題して行った。まず、独立行政法人国際協力機構（JICA）による海外支援の状況として、これまで敷設された鉄道の総延長が1400kmに及ぶこと、安全な飲料水が入手できる人口が28百万人増えたこと、中国でのCO<sub>2</sub>排出量を680百万トン削減したこと、などが紹介された。また、支援先国が32カ国に上ること、うち80%以上がアジア諸国であること、国別では、インドネシア、中国、インドが上位3者であることなどが説明された。

本論では① Think Green、② Implement Green、③ Procure Greenの3項目に分けて日本政府、JICAのグ

リーン化推進の取組みが紹介された。Think Green（グリーン化への方針）で、JICAが目下推進する案件として、気候変動に対応するプロジェクト、環境改善プロジェクト、組織的取組み支援プロジェクト（気候変動プログラムローンなど）の3点が挙げられた。次にImplement Green（グリーン化の実行）として、JICAでは「環境ガイドライン」を定めていること、また工事期間中の対策として契約上の要求事項に環境保護項目を入れていること、コンサルタントにこの点も含めた施工監理を求めていること、などが紹介された。

Procure Green（グリーン調達）では、よりグリーンな業者の選定や、よりグリーンな製品の使用を推進している。しかし、「よりグリーン」の定義は何か、「グリーンさ」をどう評価するのか、といった難しい問題があることも指摘された。

## 2. 低炭素成長への国家ビジョンとKEXIMの役割

次の講演では、韓国EximbankのChang Ho Jung氏がGreen Finance、Green ODA、Green Pioneer Programの3点を紹介した。Green Financeは、10部門の技術開発と、10分野のプロジェクトに優先融資するもので、その金額は2011年に3.9兆ウォンに達している。Green ODAは、韓国ODAの最優先事項で、水供給、再生可能エネルギー、廃棄物処理などの分野に2011年は4千億ウォンをコミットしており、総額の30%を目標としている。また、国内のグリーン産業を海外市場に売り込むGreen Pioneer Programの紹介がなされた。

## 3. 質疑および議長総括

グリーン化は金がかかる、途上国では貧困撲滅などが優先事項ではないか、という質問もあったが、環境汚染がもたらす中長期コストを考えればグリーン化は必ずペイするはずとの回答がなされた。最後に、「環境を維持しつつミレニアム目標を達成する」重い課題がコンサルタントに課されている、との議長総括で、セミナーを終了した。

特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## Young Professionals Forum 若手技術者による公開討論会

株式会社建設技術研究所 水システム部  
技術研修委員会 YP 分科会 矢神卓也

日 時：2012年9月10日(月) 16:00～17:30

議 長：Selena Wilson (Canada)

報告者：Chee Chan (Canada), Jane Scanlon (Australia),  
Alejandro Varón (Spain), Nader Shokoufi (Iran),  
Simon Davidson (Canada)

参加数：約150人

### 1. プログラムの概要

「持続可能性 (sustainability) の将来：若手技術者からの視点」というタイトルで、各国の若手技術者から自国での取り組み状況について報告があった。概要は以下の通りである。

#### (1) Chee Chan 氏 (Canada)

気候変動による外力変化の影響により、カナダにおいてもインフラ施設の脆弱性が指摘されており、それらを効率的にマネジメントする手法として、PIEVC (Public Infrastructure Engineering Vulnerability Committee) における評価プロセスと TBL (Triple Bottom Line) 解析ツールの紹介がなされた。これらのツールは、若手技術者に、気候変動問題に関する技術力、リーダーシップ向上のよい機会を与えると主張した。

#### (2) Jane Scanlon 氏 (Australia)

「持続可能性を成功に導くため」と題して、インフラプロジェクトの中に、“持続可能性” にインセンティブを持たせるための手法と、その適用例について紹介があった。オーストラリアにおける初の持続可能性評価手法として、AGIS (Australian Green Infrastructure Council) IS ツールが紹介され、プロジェクトの計画段階から、建設、維持管理にわたって適用できることを説明した。

#### (3) Alejandro Varón 氏 (Spain)

スペインにおける鉄道分野での「持続可能性」に資する、主に省エネに繋がる技術の紹介がなされた。概要は以下の通りである。

- ・電車のブレーキによって生じる電力を、架線を通じて別の電車の動力に変える技術
- ・高低差なく路線を計画すること。
- ・建物内の熱循環、日本の発電床。

・ディーゼルと電気のハイブリッドトレイン  
最後に、電車が飛行機、車等より少ないCO2排出量、電力で移動ができるということを主張した。



#### (4) Nader Shokoufi 氏 (Iran), Simon Davidson 氏 (Canada)

YPFSC が、FIDIC 大会開始前に実施した、グリーンプロジェクトに対する各国の若手技術者の意見についてのアンケート調査の結果の発表を行った。

調査の母数はイランから6割とやや偏ったものであったが、概ね以下の通りである。

YP にとってのグリーンプロジェクトとは、

- ・企業の公の信用を得ること
- ・業界の中において信頼を得ること
- ・YP の役割をさらに重要にすることができる

等の支持が高かった。また、グリーンプロジェクトに関する知識は、エンジニアや NGO が詳しいが、プロジェクトの決定権は、役所にあるという取りまとめもあった。

### 2. 所感

AJCE も YPF での発表に向けて手を挙げていたが、願いかなわず発表できなかった。

「持続可能性」たるもの(省エネ、節水、等々)を取り入れることによって、そのプロジェクトに大きな利益をもたらすという、仕組みや技術革新をまだまだ考えていく必要があると感じた。

特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## Plenary Session II Green Growth – New Perspective 全体会議 II グリーン成長—新たな展望

株式会社東京設計事務所 東京支社長  
国際活動委員会副委員長 会員委員会 狩谷 薫

日 時：2012年9月11日(火) 9:00～10:30  
座 長：Seung Yong Hong(大統領 教育科学技術  
諮問委員会 委員長)  
発表者：Soon-Man Hong(韓国)、Najib Saab(レバノ  
ン)、Galia Ismakova (ADB、フィリピン)

### 1. セッションの概要

ホスト国韓国における交通に関する取組み、MENA(中東及び北アフリカ)における環境への取組みと産業セクター別のグリーンニングによる経済効果に関する展望、アジア開発銀行(ADB)のグリーン成長に関する取組みが紹介された。

### 2. 基調セッションの内容

#### 2-1. 将来に向けての革新的グリーン交通 Soon-Man Hong 氏

- 1) 交通セクターが21%のエネルギーを利用し、CO<sub>2</sub>の排出量を年5%増加させる。自動車が94%を占めており、現状の道路中心の投資は気候変動の状況を悪化させる。
- 2) グリーン交通へのシフトにより、CO<sub>2</sub>を2020年までに35%削減を計画している。2020年までに、鉄道への投資を増やす計画である。
- 3) HSR(High-Speed-Railway)の拡張、都市鉄道ネットワークの拡張、高速都市交通システムの拡張等の取組み等が説明された。
- 4) 低コストグリーン車、超高速鉄道、地表面地下鉄システム、既存車両利用の小規模トラム、軽量交通構造等の革新的なグリーン交通技術の開発・実用化の状況等が説明された。

#### 2-2. グリーン成長？アラブ生き残りオプション Najib Saab 氏

- 1) 1961-2008にGDPが4倍になっている反面、自然資本や環境が悪化している。環境悪化を伴う石油の輸出や地域の自然資源の過剰搾取が原因で、その状況はAFED(環境と開発に関するアラブ・フォーラム)に示されている。
- 2) 地域の経済統合・協力、アラブ自由貿易、科学的な研究での地域プログラムへの注力が必要である。グリーン経済が生態的な不均衡や持続可能な成長に貢

献するには、持続可能な雇用の確保を促す開発戦略が必要である。

- 3) AFEDのグリーン経済報告書によると、グリーン化の推進により、GDP増加、雇用拡大、コスト削減が可能である。原材料販売や投機による”仮想経済”から持続可能な生産に注目した”実体経済”への移行が必要である。

#### 2-3. ADBのグリーン成長に関する取組み Galia Ismakova 氏

- 1) 長期戦略フレームワーク(Strategy 2020)では、環境的に持続可能な成長ということが主要な戦略開発テーマとなっている。
- 2) 知っておくべき12の事柄をもとにADBの考え方が示された。グリーン成長の定義、アジア太平洋地域でのその状況が整理されている。
- 3) ADBの環境関連施策が説明された。気候変動、エネルギー、持続可能な交通、水への資金融通等が説明された。包括的経済成長、環境的に持続可能な成長、地域統合が必要。
- 4) グリーン調達、ADBの調達ガイドライン、グリーン調達に関する課題が報告された。コスト、性能、適用可能性、品質や環境成果を勘案したVFMの達成が条件となっている。

### 3. 質疑等

- 1) Soon-Man氏に対して、多くの開発を進める中での教訓について質問があった。これら技術を適用するとコスト増が危惧されるが、安価で実現する必要がある。技術の革新で実現できると考えている、との回答があった。
- 2) Saab氏に対して、地域的な持続可能性へのアンバランスの調整に関する質問があり、地域的な統合と能力開発による地域格差解消が必要とのことであった。
- 3) 原子力発電に関しての賛否を問う質問があった。Ismakova氏からは、ADBでは原子力発電は援助対象リストに載っていない。理由は不明だが、膨大なコストと病院すらないのに何故原子力かという一面もあると思うとの回答があった。またSaab氏より福島事故の後では、その安全性に関してより熟慮する必要があるとの意見があった。



特 集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## Seminar 4 Climate Change and Sustainability — New and Emerging Challenges and Solutions セミナー4 気候変動とサステナビリティ

株式会社日水コン 下水道事業部長  
政策委員会副委員長 国際活動委員会 春 公一郎

日 時：2012年9月11日(火) 11:00～12:30

議 長：John Boyd(カナダ、SDC 委員)

講演者：Shada Elsharif(ヨルダン、AJ Group)、Han Dong Man(韓国、外務省)、Iksan van der Putte(オランダ、RPS)、Sekadi Phayane(南ア、Vela VKE Consulting Engineers)

### 1. はじめに

持続可能性委員会(SDC)ならびに気候変動タスクフォース(CCTF)に関わるワークショップである。会場では、EFCAと共同で作成された「プロジェクト・サステナビリティ・ログブック」が配付され、これについてボイド氏から説明があった後、4名の方からそれぞれの立場からプレゼンテーションがあり、意見交換が為された。概要は以下の通りである。

### 2. ヨルダンにおけるサステナビリティ【Shada Elsharif】

気候変動に関して、中東・北アフリカ地域(MENA)に対する国際機関の動きが活発化している。エンジニアリングにおいては気候変動の影響に配慮しなくてはならなくなっている。ヨルダンは資源のない発展途上国に過ぎないが、エンジニアが多く、多くのドナーの支援に基づきプログラムが実施されているなど、チャンスはあると考えている。異分野のコンサルタントがチームを形成し、関わっていくことが肝要である。コンサルタント業界は、分野を拡張、異文化交流を進めるようなネットワークを構築していかなければならない。

### 3. 韓国における展望と国際協力【Han Dong Man】

韓国においては、平均気温の上昇(世界平均の2倍)やエネルギーの輸入依存、経済成長の鈍化といった背景から新たなビジョンが求められており、それがグリーン成長である。ODAでも環境分野への重点化を進めており、2009年で14%の環境ODAを2020年には30%に

まで増やす計画である。また、「Me First」スピリットの一例として、途上国のグリーン成長計画立案を支援するための世界的シンクタンク(GGGI)を設立している。エネルギーに関しても、安全保障的な側面にも配慮しつつ、再生可能エネルギー導入を推進すべく政策転換を図っていく計画である。何事も、皆で当たれば、大きすぎる事はない。

### 4. 気候変動と求められるパラダイム・シフト【Iksan van der Putte】

気候変動とサステナビリティは密接に関係しており、パラダイム・シフトへの重要な原動力である。オランダ環境省は、現在の傾向が続くなら、気温上昇の限界と言われる2℃を今後20年で超えると警鐘を鳴らしている。オランダでは様々な取り組みが進められているが、その一つは下水道で、従来の集中型ではなく、分散型を試行する動きが始まっている。先進国にはこのような発想転換を進める責務がある。治水面でも、1996年に洪水防御法ができたものの財政的に困難なことから、ミチゲーションからアダプテーションへ、フェイル・セーフからセーフ・フェイルへと方針転換を図った。技術だけでなく政策的な議論が不可欠であり、FIDICは持続性に関連づけた標準約款を作成すべきだ。

### 5. 持続性 vs. 発展【Sekadi Phayane】

途上国の都市化はスプロールや貧困といった問題を抱えているが、田舎に住むというのがひとつのオプションではなかろうか。田舎に住むことに短所はあるが、それも様々な技術が補ってくれるだろう。例えば、携帯電話などの無線技術がもたらした恩恵は大きい。エネルギーや食料、水を地産地消していける可能性もあるだろう。技術は田舎暮らしを支える鍵であり、それはエンジニアの双肩にかかっている。FIDICはそれに向けてリードしていくことができるはずだ。



特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## Seminar 5 Sustainable Solutions and Eco-Innovation セミナー5 持続可能な解決法とエコイノベーション

八千代エンジニアリング株式会社 国際事業本部 副本部長  
FIDIC CBC 委員 国際活動委員会 CB 分科会 武内正博

日 時：2012年9月11日(火) 11:00～12:30  
議 長：Pro. Jong She Lee (Hanyang University－韓国)  
参加人数：約30名



本セミナーのテーマは、「持続可能な解決法と Eco-Innovation」であった。プレゼンテーションは、以下の3項目について行われ、プレゼン終了後、質疑応答が行われた。

### 1. A Study on the Development of Korea Greenroads Rating System 韓国におけるグリーン道路評価システム開発に関する研究(韓国)

Jugoang Lee 氏：韓国高速道路公社のシニア研究エンジニア

◆グリーン道路認証とマニュアルの開発は計画段階であり、建設業者選定におけるグリーン道路認証活用のための指標設定を行っている。評価基準設定における留意点は、①評価基準は、シンプルで定量的であること、②米国の Greenroads に適合すること、③評価に費やされる労力を最小限にすること、等である。

◆将来の方向性としては、①さらに2つのプロジェクトを実施する、②認証の目的に見合った指標を設定する、③評価点のランク付けを行う、こととしている。

### 2. New Solutions for Green Economies グリーン経済に係る新たな解決法 (フランス)

Karine Leverger：Syntec-Ingenierie 社の専務

◆グリーン経済に係る新たな解決法(ソリューション)を得るためには、R&D(研究開発)、イノベーション及び持続可能性を結びつけることが重要である。

◆持続可能性のある未来のためには、イノベーションと解決法が最も重要であり、世界が直面しなければならない困難な挑戦である。

◆革新的な解決法を採用する場合は、環境保護及び経済成長と同一歩調をとることが必要である。

### 3. The Key to Sustainable Development-Innovation of Eco-oriented Development 持続可能な開発のカギーエコ志向型開発モードのイノベーション

Wu Hongmei 氏：中国浙江省開発・計画研究所の主任エンジニア

◆浙江省は、中国の南部に位置し、経済成長率は12%と同国平均の2倍と高い。人口が3,400万人と飽和状態にあり、持続可能な開発を達成するためには、エコ志向型イノベーション戦略が必要である。同戦略の核となるのは、生産形態、生活スタイル及び方針・管理のイノベーションである。

◆生活スタイルのイノベーションは、快適、健康かつ環境にやさしい生活スタイルをいかに創造するかである。浙江省第一の都市、杭州市では、生活スタイルのイノベーションとして、①バス停や水上バス停での公共自転車の貸し出し、②自然換気と自然照明の活用、③使い捨て用品の削減、④家庭用低炭素行動マニュアルの発行、を提唱している。

### 4. 所感

3人のプレゼンターの発表内容を要約すると、「持続可能な開発のためには、グリーン道路、グリーン経済、エコ志向型イノベーションなどを考慮した解決法(ソリューション)が必要である」ということになると思う。プレゼン終了後のQ&Aでは、質問が活発に出されたが、モデレーターが整理できず、また、プレゼンターも質問に的確に回答できなかったため、全体的にセミナーの運営がスムーズにいかなかったのが残念であった。

特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## Seminar 6 Green Growth - New Business Paradigm? (Green Procurement) セミナー6 グリーン成長—新しいビジネスのパラダイム(グリーン調達)

株式会社建設技術研究所 東京本社 営業部長  
国際活動委員会 QBS 分科会長 河上 英二

日 時：2012年9月11日(火) 11:00～12:30

議長：Bernard Becq, USA The World Bank

報告者①：Francois Swart, South Africa

報告者②：Stellan Fryxell, Sweden Tengbom

報告者③：Paul Oortwijn,

The Netherlands NLingenieurs

参加人数：約100人

### 1. セミナーの概要

このセミナーでは、グリーン成長に必要な要因や活動成果の現状を踏まえて、取組みの紹介や今後どうあるべきかについて、3人のスピーカーから説明がなされた。

各国でグリーンな政策や実施を進めてきているが、その対応をはるかに上回るスピードで、環境破壊や気候変動による影響、生物多様性の損失などが進んでいる。また、それぞれの国に任された形で進められていることも指摘され、これからは世界がひとつになって、様々な側面からグリーン成長化に向けた政策を実施していくことが必要である。

### 2. 報告の概要

#### (1) グリーン経済の推進

リオでの地球サミットでは気候変動への対処や生物多様性の保護が合意事項であったが、リオ+20では新たな宣言も進展もなかった。CO<sub>2</sub>の排出量の現状を示し、中国、米国が圧倒的に多いことを指摘するとともに、貧困問題や途上国を中心とした気候変動などに起因する災害が相変わらず多く、グリーン政策の成果が出ていないことを指摘した。グリーン経済政策を進めることが持続可能な開発そのものであると説明し、再生可能エネルギー、グリーンビルディング、クリーン輸送、また水管理、廃棄物管理、国土管理の6つをあげた。加えて、持続可能な開発

を進めるためには、社会、経済、環境の側面での実施が必要であることが説明された。

#### (2) 建築の側面から

世界のわずか2%の土地を占める都市に人口の約半分が生活をし、大半のエネルギーを消費するとともに大半のCO<sub>2</sub>を排出している。今もなお世界中で、都市化が急速に進行しているため、悪化の方向にある。この都市化への取組みの改善が必要であることを背景に、対応策や事例が紹介された。エネルギー、水、輸送、通信などネットワークインフラの効率化が必要であることを説明し、建築物や街におけるグリーンな取組みの紹介（材料やエネルギー、循環など）がなされた。環境にやさしいインフラへの戦略的な投資を拡大することが必要であること、またあらゆる方法で持続可能な方向への改善をすべきであり、その点でのFIDICの主張が必要であるとした。

#### (3) オランダの取組み

オランダでは目標を明確にして取り組んでおり、エネルギー利用と削減、関係者との連携、リーダーシップなどの企業活動を評価し企業を5段階に区分している。レベル5の企業については、CO<sub>2</sub>の削減目標や計画を策定し、公表していることや、その貢献度を証明できることなどが要件とされている。また、そのインセンティブとして、その削減効果の一部を企業に還元する制度も設けている。

持続可能な計画やプロジェクトを測るツールの紹介がなされた。これは、様々なデータベースをもとに、環境への負荷や設計内容の持続可能な点からの評価、ライフサイクルなどを分析することによって、企業評価や他のプロジェクトへの応用などに活用もされている。

特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## Focus on Asia Forum : Natural Hazard Mitigation アジアを焦点とした討論会：自然災害の軽減

株式会社建設技術研究所 東京本社  
河川部長 藤原直樹

日 時：2012年9月11日(火) 16:00～17:30  
議 長：Prof Kyung Soo Chon, Seoul National University, Korea  
講演者：Yang Aiguo, Transport Planning & Research Institute, China  
Dennis Sheehan, Opus Consultants, Australia  
狩谷薫、東京設計株式会社、日本  
Hyeon Sik Kim, K-Water, Korea



左から2番目が狩谷氏

### 1. プログラムの概要

ソウル大学教授 Kyung Soo Chon 議長のもと、4名の発表者より近年アジアで発生した自然災害とそれに対する取り組み等についての紹介があり、議論が行われた。

### 2. 発表の概要

#### (1) Yang Aiguo 氏の発表

2008年5月12日に中国四川大地震とそれに対応した道路の復旧、復興についての説明があった。

四川大地震による人的被害は8万人以上である他、道路に対する被害も甚大で、被害総額は約100億ドル、高速道の5%、主要幹線道の43%、地方道の51%が被災した。これに対し、2008～2010年の3年間で約160億ドルをかけて再建がなされた。その結果、2011年9月末現在で95%の主要道の復旧が完了した。但し、一部橋梁やトンネルには低い基準がそのまま使用されるなど、大規模地震に対する安全性を確保するためには更に長い時間を要することが課題である。

#### (2) Dennis Sheehan 氏の発表

オーストラリアクイーンズランド州の洪水対策について説明があった。

クイーンズランド州では過去に大規模な洪水災害を何度も受け、それに対応した災害対策に関する法律や復興庁の設立など、対策を講じてきた。また、災害管理協定を、地域、州等様々なレベルで結び、予防、復旧、復興の各フェーズでの対応を取っている。

#### (3) 狩谷薫氏の発表

2011年3月11日に発生した東日本大震災を踏まえ

た自然災害の脅威と共存する持続可能な発達のための教訓について説明があった。

日本では、近年の科学技術の発展等により、1万人以上の多数の死者を出す災害は、1898年以降120年間生じていなかった。この技術開発に対する過信が被害を拡大させたとも言える。

また、最大規模の自然災害に対して人命を救える方法は、防災構造物によるハード対策ではなく、人間各自が災害時に適切な避難が行えるソフト対策であるということも認識する必要がある。最大規模の自然災害の発生期間を考慮した時に一番問題となるのは「忘れやすい」人間の性質であり、自然の脅威を長く次世代に伝えるには、記録を「伝承文化」として育てるソフト(文化インフラ構築)が有効である。

#### (4) Hyeon Sik Kim 氏の発表

情報通信技術をベースとした韓国の総合的水資源管理(IWRM)の状況に説明があった。

近年の韓国の年間降水量は約1300mmであるが、降雨は6～9月に集中し、韓国本土の約65%が急傾配の山地であることから、年間降水量のうち、使用可能水量は1/3程度にとどまっている。そのため、ダム等を用いた効率的な水運用が不可欠であり、K-Waterでは様々な水管理システムを構築し、総合的水資源管理に取り組んでいる。

### 3. 所感

アジア各国の自然災害の状況やそれに対する取り組みや課題、教訓等を聞くことができ、非常に興味深い情報を得ることができた。



特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

# Plenary Session III How to Go Beyond Green: A Shifting Paradigm 全体会議Ⅲ 「緑の向こう」への手引き：パラダイムシフト

日本工営株式会社 都市・物流部  
技術研修委員会 YP 分科会 北野知行

日 時：2012年9月12日(水) 9:00～10:30

議 長：Chris Newcomb (McElhanney Consulting Services, Canada)

講演者：Carlos Busquets (International Chamber of Commerce, France), Kwang Jae Kim (Korea Rail Network Authority, Korea), Romilly Madew (Australia Green Building Council, Australia)

参加人数：約150名



## 1. プログラムの概要

世界の人口は2050年に90億人に達すると予想され、限られた資源を有効活用する必要性を問われる昨今、コンサルティングエンジニア産業においてもパラダイムシフトが求められている。FIDIC理事会メンバーであるChris Newcomb氏を議長に、所属や立ち位置の異なる3名の講演者による活動紹介およびFIDICへの提言がなされた。

Carlos Busquets氏が属するInternational Chamber of Commerce (ICC)は、民間企業の世界ビジネス機構として活動しており、現在世界で120カ国以上、数千の大小様々な企業を会員に有している。今後、これまで同様の資源利用を進めた場合には年間消費量が現在の3倍近くに及ぶとの推察から業界が転換期にあることに注目しており、将来展望として、Economic Innovation、Environmental Innovation、Social Innovationの3つを挙げている。実現に向けては相互の補完・強化が必要であり、持続可能な開発のためには、環境配慮と経済成長の連携が不可欠である。今後25年間で約50兆米ドルを超えるインフラ整備が必要と見積もられており、特に新興国や途上国での重要性が強く認識される現在、民間企業の参画促進、PPP等の実施スキームの改良がパラダイムシフトの突破口になるであろうと強調した。

Kwang Jae Kim氏は、近年の気候変動に伴う環境配慮の必要性、および実施業務についての事例紹介を中心にを行った。世代間の公平性を保ちつつ持続可能な社会を育むための施策として、2020年までのマスタープラ

ンを策定し、地球温暖化ガス排出量削減のための新エネルギーやスマートグリッドの適用、資源の再利用・廃棄物の削減等の環境管理体制の強化を推進している。

Romilly Madew氏は、建物に関わる地球環境への負荷を総合的に低減するために、その計画・建設段階から運用、そして廃棄までを視野に入れ、海外との情報交換や国際交流を通して地球環境保護及びその唱道に参与することを目的としたGreen Building Council (GBC 2002年創設、加盟国91カ国)におけるオーストラリアでの活動内容を紹介した。FIDICはGBCの活動を最良事例として認識しており、知識共有と地球規模での施策を広範に適用することの必要性を強調している。

## 2. 所感

各論での議論展開が難しいと感じるテーマであったが、質疑応答では様々な視点から活発な意見交換がなされた。なかには、途上国は先進国による枠組みの提供、支援を求めているとストレートに述べられたものもあり、状況や立ち位置に応じて縦横断的な連携が不可欠である点を再認識した。「How to Go Beyond Green 緑の向こう」をキーワードに世界各地で様々な活動が行われ、成果が出てきている。講演者全員の共通した認識として、政府へのロビー活動等を通じた枠組みの構築、FIDICによる支援体制の充実が持続的な効果創出に不可欠な要素であることが強調された点は興味深いものがあった。



特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## Seminar 7 Working Greener and Smarter セミナー7 環境に優しくよりスマートな取り組み

株式会社森村設計 環境部マネージャー  
袖川 政憲

日 時：2012年9月12日(水) 11:00～12:00

議 長：Alain Bentejac

報告者：Young Geun Lee, Kerry Rudd,  
Naren Bhojaram

### 1. 概要

仁川空港プロジェクト、カナダのコンサルティング企業内における温室効果ガス削減、南アフリカのプロジェクト企業責任について報告があった。先の報告2件は概略的な事例紹介、最後の1件は具体性に欠ける概念的な内容であった。

### 2. 仁川国際空港プロジェクト(Mr. Young Geun Lee, 仁川国際空港会社)

1992年マスタープラン承認から2008年2期工事竣工を経て、本空港は韓国最大の土木プロジェクトとなった。現在、旅客数が世界第8位、貨物数が第2位の規模で運営されている。

スマート空港を4つの項目(旅客、従業員、パートナー、政府)にて定義し、それぞれの具体的取り組みを紹介している。

最初の「旅客」に対しては、スピード・安全・利便性の提供が重要とし、旅客数予測システムによる税関、出入国管理、航空会社間の情報共有による出入国時間短縮やセルフチェックイン、出入国手続き、サイネージへのIT導入による事例を紹介した。残る3項目は従業員向けプログラムや空港内テナントとの連携など、テーマとは関係性の低い内容であった。

環境に優しい空港に向けて、2015年までに50,400t-CO<sub>2</sub>削減(67百万ドルの投資)を掲げ、風力発電、太陽熱利用、太陽光発電の導入により自立型エネルギー比率10%まで高め、2013年までにリニア交通(営業長6.1km、6駅)や軽量型ローディング装置等を計画している。

将来対応として第2旅客・貨物ターミナルを建設中であり、さらに24,000kWh規模の自家発電、再生可能エネルギー利用による65%エネルギー削減が計画されている。

### 3. カーボンニュートラル社内活動(Mr. Kerry Rudd, Associated Engineering, Canada)

AE社はカナダ国内に21か所の拠点、850名のスタッフを擁するコンサルティング企業で、国内向けサービスが中心である。カナダ国土は広大でAE拠点間の業務移動距離は相当なものになる。

2006年に計画立案(境界設定、評価・報告方法など)を行い、翌年からカーボンニュートラル活動として、業務出張、施設用エネルギー、通勤の3項目に対する温室効果ガスの計測を開始した。2010年は2008年比でCO<sub>2</sub>排出量が4.2%の削減となり、ビデオ会議導入による国内移動量の低減が一つの要因と分析している。

これまでの活動のなかで、正確なデータの収集、投資機会の判断、信頼できるプロバイダーの3項目が課題に挙がっている。

最後に、コスト面では2010年で\$129,681(4,803t-CO<sub>2</sub>)の削減を達成できた。2次的効果として、企業イメージが向上し、本活動(環境貢献)が新規採用者の応募のきっかけになっている。

### 4. 南アフリカにおけるプロジェクト企業責任(Mr. Naren Bhojaram, Royal Haskoning DHV, CESA president, South Africa)

南アフリカでは、政府系クライアントがプロジェクトに対して、予算制約の中で可能な限りの領域をカバーしたいという要望が強く、環境配慮よりも食料、水、衛生、エネルギー供給等の最低限のサービスがサステナビリティを表す状況である。民間セクターでは、グリーンビル協議会やグリーンインフラ協議会が推進役となり、環境配慮対応が順調に進捗している。

プロジェクトへのサステナビリティ導入には企業が果たすべき責任の認識が重要である。天然資源、エネルギー使用への配慮、廃棄物予防などの環境効率と、持続可能な資源管理やライフサイクル的なアプローチの要因を理解した上でクライアントへの説明責任を果たすべきである。

## 特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

Seminar 8 Enhancing Capacity and Raising Standards  
セミナー 8 能力強化と水準向上日本工営株式会社 中央研究所 研究員  
中村 ゆかり

日 時：2012年9月12日(水) 11:00～12:30

場 所：Room 104

議 長：Henning Therkelsen, Cowi, Denmark

講演者：Inhee Chung, ERM, Korea

Henrique de Aragao, ABCE, Brazil

(Mauro Viegas Filho, ABCE, Brazil)

Anders Thyge Egeberg, Cowi, Denmark

参加者：約50名

## 1. プログラムの概要

競争力を強化し、新ビジネスへの展開のためや、Greenの観点でプロジェクト遂行を改善するために地元企業と国際的な企業間での“Green”知識の共有が求められている。そこで、地元の能力開発を成し遂げる方法としてグリーンプロジェクトを使った3つの事例の紹介があった。

## 2. 報告者のプレゼン概要

本プログラムの初めに議長から、FIDICで立ち上げているCapacity Building Committee (CBC)の紹介があった。CBは能力強化を必要とする国でコンサルティング・エンジニア(CE)の能力強化を行うことを目的としており、これは将来的に業界全体の利益につながることから、CBの必要性をCEにもっと認識してもらうための活動を行っている。CBCのパフレットがFIDIC-websiteにあるのでぜひ見て欲しい。とのコメントがあった。



## ・ Inhee Chung 氏

韓国政府のビジョンとしては、国家的な低炭素 Green Growth 戦略として、2020年までにCO<sub>2</sub>を30%削減し、2020年までにはGreen Powerを世界第7位、2050年には世界第5位を目指すとしている。その対策としてKGBC、LEED、BREEAM等の環境性能評価システムに沿ったデザインやグリーン建築証明基準へのリモデリングを行っている。



それらを実施している企業としてSAMSUNG、Woongjin、LOTTE等の紹介があった。韓国においても、こうしたGreen building projectsはまだ比較的新しいものであるため、関係者との連携を図るための打合せやワークショップを開催することや教育者を育てることが重要であると述べた。

## ・ Henrique de Aragao 氏

ブラジルは風力・バイオ燃料・水力などの多様な再生可能エネルギーに恵まれているが、風力発電が稼働し始めた当初はわずか2.2MW程度であった。それが、



今日では2GW以上の能力を持ち、54もの風力発電所が稼働し、4年で4GW以上の装置能力となるだろうとのこと。また、スラムの再開発により社会環境の大幅な改善余地があることなどから、2006年にスタートした集約的な都市開発の事例紹介があった。これからも再開発を行うことを表明しているが、地域住民との軋轢をうまく避けることや協力国とローカルエンジニアとの戦略的提携が必要であると述べた。

## ・ Anders Thyge Egeberg 氏

COWIはデンマークの企業であり、講演者は中国を専門に長年働いている。中国でのこれまでのグリーンプロジェクトは、国際



金融機関からの投資によるものが中心であったが、最近は国内市場によるものにシフトしてきており、法令を含む政策的なGreen認識およびコストの観点がより重要になってきている。また、新規ローカルビジネスの発展については、スカンジナビアの環境技術を中国に適用して、付加価値を高め、うまく中国に適用することが必要であり、若手教育についても重要視すると述べた。

## 3. 所感

予定時間を超えて、盛んな質疑応答が行われた。アフリカ各国から真剣な質問が相次ぎ、途上国の能力開発に関しては、まだまだ課題が多く残されていると感じた。

**特集：FIDIC2012 ソウル大会報告****Seminar 9 Green Integrity - Raising Standards  
セミナー9 グリーンな公正性**株式会社東京設計事務所 下水道グループ 執行役員  
**田村 一郎****日 時：2012年9月12日(水) 11:00～12:30****場 所：Coex 105 会議室、Seoul****議 長：Jorge Diaz Padilla (Systec, メキシコ)****講演者：Richard Stump (米国)****Dr. Bernd Kordes (ドイツ)****Bernard Becq (米国)****1. はじめに**

議長から、FIDICの創立以来、品質、公正性、持続可能性の3つが重要なkey issueであり、公正性はGreen Integrityに欠かせないとの説明があった。その後、上記の3名のプレゼンターからそれぞれの立場で発表があった。以下にその概要を紹介する。

**2. Richard Stump 氏の発表 (Stanley Consultants, US)**

“持続可能性と公正性”というタイトルで報告があった。持続可能なシステムが目標とするのは環境、経済、社会の保全と改善である。持続可能なシステムの例として、日本のCASBEEの他、各国の例が報告された。また、持続可能性という観点からのプロジェクト評価の方法について説明があった。公正性を脅かすものとしてGreen washing (製品やプロセス、プロジェクトにおいてgreenや持続可能性についてごまかしのPRやマーケティングを行うこと)の事例紹介があった。公正性を維持する手段として、評価システム、情報の透明性、第三者によるレビュー等の紹介があった。今後も、システムの進化は続くが、システムの成熟は新たな脅威となることを指摘していた。

**3. Dr. Bernd Kordes 氏の発表****(Lahmeyer International, Germany)**

最初にLahmeyerグループの概要説明があった。スタッフは1500人、2011年の売上高が2億USDで、MENAや南アジア、アフリカを中心に水力発電事業を手掛けている。“Green”事業の実績として、10年以上にわたって再生可能エネルギーの仕事を行っている。彼らのクラ

イアントがプロジェクトに求めていることは、資金面での持続可能性、再生可能エネルギーへの投資、地域社会にも受け入れられることである。ドイツでは、大きなインフラプロジェクトは、過去になかったような市民社会からの反対に直面しており、その事例紹介があった。Green IntegrityはまだBoard roomsで実現していない。持続可能なプロジェクトだけが汚職に染まらない環境の中で発展するであろうとの結論であった。

**4. Bernard Becq 氏の発表****(Chief Procurement Officer, World Bank, US)**

World Bankの汚職防止方針と実践について報告があった。公正性は長年にわたって世銀の基本原則である。様々な広範なセクターでの統治の重要性が指摘され、倫理的なリーダーシップ、透明性確保、公的機関のチェック、市民社会やメディアとの関係等について説明があった。詐欺や汚職に対する銀行の対応方法と調査結果の報告があった。Green Integrityという観点では、新たな機会が開ける。民間の果たすべき役割では、特にインフラセクターとしてのエンジニアの共同体が鍵であり、彼らはgreen growthを加速するためのデザインをすべきであるとの報告があった。

**5. おわりに**

Green Integrityというテーマで3人の発表があったが、greenと言いながらも内容は基本的には公正性(詐欺行為や汚職の防止)に関する内容であった。議長の発言で、“Green Integrity is integrity in green flavor”という言葉が象徴するようにGreen Integrityに明確な定義があるわけではないようである。会場からは、Green IntegrityのISO化や世銀での世界標準化についての質問があったが、国によって状況が異なりこれを網羅するとプロセスが膨大となるためISOは規格化を望んでいないことや、標準化については誰も使わないようなものを作っても仕方がないので各国の対応にまかせたいとの回答であった。また、Green washingへの対応の厳格化により悪質な企業の参入を防げるとの意見があった。

特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## Seminar 10 Strengthening Regional and International Dialogues セミナー 10 地域レベル・国際レベルの対話の強化

八千代エンジニアリング株式会社 国際事業本部 業務企画部 営業課  
担当課長 高田 滋人

日 時：2012年9月12日(水) 11:00～12:30

議 長：廣谷彰彦、オリエンタルコンサルタンツ

株式会社、代表取締役会長、

FIDIC 理事、前 AJCE 会長

講演者：Jose Laffond Yges, Director, TYPESA,  
Spain

Youn Su Jung (Senior Research

Engineer, Hyundai Engineering &  
Construction, Korea)

Babatunde Ogunde, Unicon, Nigeria

### 1. プログラムの概要

冒頭に議長のプレゼンテーションを通じて本プログラムのテーマについてレビューがなされた。

1913年に加盟5ヵ国でスタートしたFIDICの変遷を振り返り、今や89ヶ国、加盟6万社(2011年時点)に成長した地域・国際ネットワークを活用することの重要性和、ファシリテータとしてのFIDICの役割について確認した。

FIDICが特に注力してきた活動として、コンサルタント技術者の地位向上、契約約款の発行・整備、及び各種セミナー・トレーニングの開催、地域対話イベントの開催(例 ASPACE 2011)、次代を担う若手コンサルタント技術者育成プログラム(325名の卒業生を輩出)などが挙げられる。



### 2. 各講演者の報告内容

#### (1) Jose Laffond Yges 氏

国際的な輸送整備プロジェクトを通じて実行されたEUと地中海沿岸諸国との地域間連携事業の事例を紹介。

Euromed Transport ProjectはEUの支援によって地中海沿岸諸国を結ぶ陸・海・空輸送ネットワークを構築・整備する事業で、アルジェリア、エジプト、ヨルダン、トルコなど16カ国が参加。プロジェクト期間中(2010～12)に34件のアクションプランが実行された。EUは融資の他、国際物流インフラ・貿易システム構築、PPPスキームの開拓、などの支援を通じて重要な役割を果たし、プロジェクトを成功に導いた。

#### (2) Youn Su Jung 氏

韓国土木・建築業界の海外事業進出は1965年にタイの高速道路プロジェクトに初参入して以来着実に業績を伸ばし、中東を筆頭にアジア、アフリカ、南米、欧州、北米市場で2012年には\$5千億の売上を達成するに至った。(海外比率39%)

同氏のHyundai Engineering & Construction社は2011年度世界ランキング23位に喰い込む大企業であるが、グローバル企業に脱皮するまでには様々な苦労があった。成長を阻害する要因として、現地情報の不足、現地人とのコミュニケーションの不備、文化・宗教・仕様コードの違い、などを挙げている。対策として、正に地域と国際社会との対話を強化することが必要であったと述べている。FIDICに期待する役割は現地政府・ローカル企業などのステークホルダー間の橋渡し役であり、それによって開発・投資が円滑に推進され、ビジネス環境の改善に繋がることが重要であると結んでいる。

#### (3) Babatunde Ogunde 氏

ナイジェリアを初めとするアフリカ諸国は紛争、政治腐敗、財政赤字、などの諸問題を抱えており、国際社会との対話の強化を必要としている。地元コンサル企業は国際金融機関の融資プロジェクトから締め出されているのが現状であり、FIDICを仲介とした対話の促進が期待されている。



## 特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

Social Events  
ソーシャルイベント株式会社日水コン 海外事業部 業務部  
福島大輔

## 1. Welcome Reception

日 時：2012年9月9日(日) 18:30～21:00

会 場：Ballroom at Grand Intercontinental

韓国経済・知識省の主催で盛大に執り行われました。会場入口「FIDIC2012」をかたどった氷像が涼を演出し、荘厳な男性ボーカルで幕を開きました。招待者VIPsのスピーチでプログラムのクライマックスを終えると、一斉に北東アジア顔(日本人以外)の多数の出席者が会場を後にしていたのが驚きでしたが、お蔭様でその後、ゆったりと韓国琴の美しい旋律を楽しみながら、非常に和やかな雰囲気の中、各国からの知人と旧交を温め、挨拶を交わすことができました。



## 2. Opening Ceremony

日 時：2012年9月10日(月) 9:00～9:30

会 場：Auditorium at COEX Center

出席者の来場を待つ間、舞台では優雅な砂絵パフォーマンスが演じられ、続くOpening Actでは一転、5人の男性による勇壮かつ豪快な韓国太鼓の演奏がされました。韓国では重要なイベントの開始の合図に、この太鼓のパフォーマンスが行われるとのこと。KENKA(韓国エンジニアリング・コンサルタント協会)会長のスピーチが英語ではなく韓国語というハプニングもありましたが、続いて韓国の首相がビデオ出演してコメントをし、FIDIC会長Geff French氏が力強く開会を宣言しました。地域色を前面にだした演出、スムーズな進行など、韓国側の今大会開催にかける意気込みが強く感じられ、盛大に大会の幕が開かれました。



## 3. "Self" Local Color Night

日 時：2012年9月11日(火) 20:30～21:30

会 場：韓国の家(伝統芸術シアター)

FIDIC主催のLocal Color Nightに今年も諸事情から申し込めなかった日水コンチームは、自己プロデュースで韓国の伝統文化を楽しみました。1時間で9演目もの伝統芸能(舞踊・音楽)を堪能し、その豊かな文化を感じられた夜でした。実は結果的に、会場でFIDIC主催のKorean House Dinner Show ツアーと鉢合わせてしまうことになりました。



## 4. Gala Dinner

日 時：2012年9月12日(水) 19:30～21:30

会 場：Vista Hall at Sheraton Grande Walkerhill

最終夜のGala Dinnerはこれまでとは一転、韓国色を徹底的に押し、西洋色一辺倒の演出で執り行われました。入口ではまたも(!?)氷の彫刻が参加者を迎え、食事はステーキがメインのコース料理、会の中盤には、Hip Hop MusicalとJazz Bandの演奏がなされるなど西洋エンターテインメント盛りだくさんの内容でした。最後はステージ前スペースがDance Hallと化し、FIDIC伝統(?)のダンスタイムで大団円を迎えFIDIC2012は成功裏に幕を閉じました。皆様、3日間、お疲れ様で御座いました。



また、隣国開催より我がAJCEからも多数の出席があり、この度、非常に多くの方とお知り合いになる機会を得る事ができました。紙面をお借りして、関係者の皆様にご挨拶申し上げます。誠にありがとうございます。御座いました。



## 特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

President Meeting  
会長会議日本工営株式会社 代表取締役社長  
AJCE 会長 廣瀬典昭

日 時：2012年9月9日(日) 9:00～12:00

議 長：FIDIC 会長 Geoff French 氏

## 1. 会議の概要

会長会議は、FIDIC 会員協会及び地域会員協会連合の会長・議長が出席し、大会の前日に開催された。会議では、FIDIC の戦略的課題、財政的戦略、地域会員協会連合における活動概要、FIDIC の主要な事業方針などの報告があり、最後に自由討議を行った。

## 2. 戦略的課題(Strategic Issues)

FIDIC 会長 Geoff French 氏から戦略的課題として、持続性、公正性(汚職防止)、FIDIC 契約約款、能力開発、各会員協会との連携強化、若手プロフェッショナルの育成等の説明があった。

持続性については新刊「持続的インフラ整備2012」が紹介された。持続的インフラプロジェクトにおける政策決定への関与、事業機会、リスク、事例を含めた持続性評価等が記載されている。

公正性(汚職防止)については、従来の罰則的視点でなく汚職防止の視点が重要であることから、新たに Model Representative Agreement の出版を準備している。

最後に FIDIC の更なる強化・発展に向けて、French 会長は会員増強、ボランティア活動の強化、各会員協会との連携強化、QBS の促進などをおし、グローバルにコンサルティングエンジニアを代表する連盟として従来にも増して期待に応えてゆきたいと締めくくった。

## 3. 財政的戦略

FIDIC 副会長 Pablo Bueno 氏が、FIDIC の新会費算定モデルの説明を行った。新モデルは、現行の会費算定モデルをより合理的に改良したもので、現行のモデルとの整合を図り、急激な増減が無いように改良されている。現在、予算に占める会費の比率は23%であるが、将来は20%を目標にしている。会費負担の軽減は、FIDIC 書籍販売や研修プログラムからの収益が好調なことによる。スポンサーからの支援額も増加しており、大

会参加費を下げることに貢献しているが、独立性や公正性の視点から、見直しが検討されている。

## 4. FIDIC 地域会員協会連合における活動概要

FIDIC 地域会員協会連合である ASPAC(アジア・太平洋)、GAMA(アフリカ)、EFCA(ヨーロッパ)、FEPAC(中南米)、FCAA(中近東・北アフリカ)の議長から活動報告があった。報告内容は各地域の事業環境、活動目標、会員増強、会員企業とのコミュニケーション促進、汚職防止等。FCAA は GAMA や EFCA の活動を支援。

## 5. FIDIC の主要な活動方針

FIDIC 専務理事 Enrico Vink 氏から、以下が報告された。

- 1) 地域戦略：2013年 FIDIC100 周年大会の準備、地域の特性を勘案した研修や能力開発の推進
- 2) 事業計画：戦略的課題への対処
- 3) コミュニケーション：新 FIDIC ウェブサイト、FIDIC 各委員会活動の支援
- 4) 国際機関との連携：国際融資機関、UNEP、UNCITRAL、ICC、ISO、OECD 等の国際機関、インフラ関連セクター等との連携促進。

## 6. 自由討議

各種報告を踏まえ以下の話題について自由討議が行われた。

- 1) 政治家や政策策定セクターとの協議やロビー活動をおとしたコンサルティングエンジニア産業のプロモーション
- 2) FIDIC 会費算定モデルの妥当性、改良点
- 3) 地域ごとの研修やセミナーをおとした能力開発、事業機会促進、会員協会や所属企業間の連携
- 4) 新規 FIDIC 契約約款の起草及び 1999 年版契約約款(Red, Yellow, Silver, Contract Guide)の改訂版作成。
- 5) FIDIC100 周年記念大会に向けたプログラムの準備、基調講演者の選定、記念賞など。

## 特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

Business Practice Committee (BPC)  
業務実務委員会株式会社東京設計事務所 東京支社長  
狩谷 薫

日 時：2012年9月9日(日) 8：30～9：30

委員長：Rick Prentice (カナダ)

出席者：担当理事 (Chris Newcomb)、事務局 (Italo Goyzueta)、委員 狩谷を含め10人

## 1. 委員会の目的

FIDIC BPCは、会員協会(MA)・企業へのFIDICの支援を実施に移すために、必要となる各種のツールを開発・提供することを主たる目的として活動を行っている。委員会内での各種プロジェクトの進捗状況と今後の委員会の運営の方向性を中心に会議が行われた。

## 2. 委員会の会議内容

昨年までのAdam Thornton氏(欠席)に変わって担当理事となったChris Newcomb氏を加え、委員長を含むBPCメンバー6人(4人欠席)と、FIDIC契約委員会担当理事のKaj Moller氏、FIDIC Practice ManagerのItalo氏が参集した。

- 冒頭、新理事のNewcomb氏より、理事会において、BPCの作業の進捗が遅いという話が出ているとの報告があった。作業量が多いのであれば、他委員会に振ることも考えてはどうかとの話があった。各種作業に関与することは委員会の性格上、必要であることから、作業に対して優先順位を明確にすると共に、必要に応じて他委員会に協力を得たり、タスクフォースで人材を集めることとした。
- 優先順位に関しては、QBSやSelection Guideが1位で、次いでG2P(Guide to Practice)やDOS(Definition of services) Civil、更に危機管理ガイドやDesign for Safetyの順番であろうと確認した。
- QBSに関連しては、関連作業(QBSガイドのファイナライズ、QBSマーケティング、ケーススタディー、QBSサポート文書の収集・整理)の継続を確認した。ガイドのファイナライズに関して、担当のFatma氏より、昨年のワークショップで指摘された、文書中の“labor”

という表現に対する批判や米国での随意契約の違法性に関しての配慮に関して苦慮しているとの説明があった。委員長等より、「ちょっとした表現の話であり、委員の間で良い表現を考えよう」との提案があった。

- DOSのCivilに関しては、Rick委員長より、建築の場合と違って簡単ではない旨の説明があったが、作業を進め、Draftを委員に回覧したい旨の説明があった。
- G2Pの第5章の改訂は、事務局でBPCとCBCの連携を図りつつある旨の報告があった。委員長からは、早急にまとめる必要があるとの話があった。
- 新規の案件に関しては、狩谷よりSDCでのPSMの普及に関して、前委員長のBill Wallace氏が契約への盛り込み、データベース作成等を提案していた旨を伝え、SDCの動きに注意を払って、BPCが協力できる部分を検討してはどうかと提案を行った。
- Disaster Management タスクフォースに関しては、本大会後に組織化を検討とのことであった。
- Italo氏より、BPCは頻繁に会議を開いており、報告が頻繁にあるが、期間が短いため進捗が少なく、それがFIDIC理事からの「作業が多すぎるのでは？」との指摘につながっているのではとの話があった。委員長を中心に少し検討をすることとなった。



BPC 会議風景 204号室

特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## Sustainable Development Committee (SDC) Meeting 持続可能な開発に関する委員会

株式会社日水コン 下水道事業部長  
国際活動委員会 春 公一郎

日 時：2012年9月11日(火) 14:00～16:30

委員長：Jean Felix (仏)

参加者：Iksan van der Putte (蘭)、John Boyd (カナダ)、Stellan Fryxell (スウェーデン)、Francois Baillon (FIDIC)、Jan Bosschem (EFCA 会長)、Alain Bentejac (仏)、Sherif Wassef (エジプト)、Moncef Ziani (モロッコ)、春 公一郎 (日)

### 1. はじめに

昨年開催されなかったSDCだが、2年ぶりに開催された。しかし、この2年間ひそかに活動は進められていたようである。特に、EFCAが大きな役割を担っている様子が窺え、欧州色を強めた印象を持った(本委員会にもECFA 会長が出席)。いつの間にかメンバーも刷新されており、旧メンバーからのアサインはPutte氏のみで、Boyd氏が復活した。委員長はフランスのFelix氏である。

### 2. 活動状況報告

委員会ではまず、昨今の活動について報告がなされた。SDC関係の活動をまとめると次のとおりである。「都市のサステナビリティ」に重点が置かれ、UNEPやISOといった他の世界機関との連携が強化された感がある。

- ① PSM 2：昨年のダヴォス大会でコピーが配布された
- ② プロジェクト・サステナビリティ・ログブック：持続性にかかわる課題を整理し、ベンチマークを記したものの。今大会でドラフトが配布された
- ③ ワールド・レポート・持続可能なインフラ：ケンブリッジ大のGuthrie教授が中心となってまとめられたもので、今大会で配布された
- ④ 「都市の見直し」白書：現在、作成作業中とのことである

### 3. 今後のアクション

ついで今後のアクションについて議論がなされた。要旨は以下のとおりである。

- 来年のバルセロナ大会にUNEP幹部を講演者として招聘する予定であり、これを実現させるためにもUNEPとの協調関係を推進していく。
- 具体には、PSM等に関わるトレーニング・プログラムにUNEP(及び可能ならICC)のサポートを得るほか、「都市の見直し白書」を完成させ、配布する。白書には、資源有効利用を進める都市に関するUNEPのステートメントを入れる。
- また、PS ログブックなど、持続可能な都市に向けた刊行物やツールを明確化する。
- PSMに関しては、ボイド氏がバルセロナ大会に向け、エンジニア向けの冊子を作成中。また、産業プログラムに関するPSM2は、UNEPやICCと開発することが考えられる。自治体向けのPSM2は白書とリンクさせる。
- グリーニングに関する契約約款については、以前から議論されてきたように、リスクをどう扱うかが課題。FIDIC調達ガイドラインはグリーン調達に関して改定すべきである。
- ISOに新たに設けられたテクニカル・コミッティ(TC268)において、全セクターにまたがる持続可能なコミュニティにかかる基準が議論される模様。
- 気候変動タスクフォースは、SDCの下部組織との位置づけだが、委員の反応や活動が低調であったため、実質上休眠状態にある。委員長であるBoyd氏も、今後の扱いについて逡巡している様子。



特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## Integrity Management Committee (IMS) Meeting 公正管理委員会

株式会社日水コン 執行役員  
AJCE 理事 国際活動委員会委員長 藏 重 俊 夫

日 時：2012年9月9日(日) 9:00～10:30

議 長：Jorge Paddila (Mexico)

参加者：Akihiko Hirotani (Japan), Mark Steiner (U.S.A.),  
Richard Stamp (U.S.A), Liu Luo Bing (China),  
Manoochehr Azizi(Iran), Nadar Shokoufi(Iran),  
Bayo Adeola (Nigeria), Toshio Kurashige (Japan),  
Kazuhisa Takahashi (Japan),  
Daisuke Fukushima (Japan)

### 1. プログラムの概要

昨年2011年にFIMSに関するガイドライン「Guidelines for Integrity Management in the Consulting Industry Part 1 ? Policies and Principles」が発刊され、現在、当委員会では、Part 2として事例を踏まえたドキュメントづくりを進めている。今回の委員会では、進捗状況、及び、今後の進め方を検討・確認したものである。

### 2. 米国協会からの報告

Mark Steiner氏により、ACECでの検討経過についての説明がなされた。ACECでは、Mark Steiner氏とACECの法律関係の審議会に所属するHenry氏が中心に事例検討をすすめている。

どのようにIMS導入の利点を整理するかが重要であるが、現時点でインプットがなく、世銀とも話しを進めている。

FIMS試験導入企業については、イギリスやカナダの企業にも加わってもらっているが、様々な企業レベルが混在しており、子細にみると、FIMS導入条件に差異が大きい。これらについては、検討を進める中で、何とか整理していきたい。

いずれにしても、ACEC内にタスクフォース(TF)を設置し、FIMS試験導入企業についてデュ・デリジェンスを実施しているところである。

また、出席者より、compliance・FIMS・anti-corruptionの整理が必要との意見があった。

### 3. AJCEからの報告

AJCEからは、藏重より、協会で実施しているコンプラ

イアンス活動に関する企業の取り組みのインタビューと、協会誌での連載事例を紹介した。

### 4. イラン協会からの報告

イラン協会については、昨年より数社での導入事例をとりまとめており、委員会席上でプレゼン資料によって導入成果が紹介された。

イランの導入事例では、理論的な面はガイドラインに沿って成功したように見えるが、実践的な面として導入時の問題点などについてのチェックが必要との意見が出席者より示された。

この点については、ガイドラインPART2のデッドラインである来年までに取りまとめることとなった。

### 5. 中国協会からの報告

現時点で進展なしとのこと。

出席者からは、ASPACの枠内で韓国・中国・日本などが中心となって議論を進めて欲しいとの要請がなされた。

### 6. 来年度のワークショップについて

来年度は、PART-2の公表と併せて大会でWSを予定するが、YPFでも実施しているようなゲーミング・シミュレーション方式で公正確保に関する議論を実施するようなことも意見として提示された。

### 7. 今後のスケジュールについて

廣谷彰彦FIDIC理事より、今後の進め方について以下のような説明がなされた。現在7企業がFIMSの試験導入を図っており、現時点でのドキュメントは、世界銀行に意見照会するとともに、関心を持っているTI (Transparency International)にも意見照会を考えている。1月のダルエスサラームでの理事会で最終版を受け取り、5月のオタワでの理事会で最終承認の予定としたい。

以上

特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

## Capacity Building Committee (CBC) Meeting 能力開発委員会

八千代エンジニアリング株式会社 国際事業本部 副本部長  
FIDIC CBC 委員、国際活動委員会 CB 分科会 武内正博

日 時：2012年9月9日(日) 10:00～12:30

出席者：(委員長)H. Therkelsen：デンマーク、  
(委員)J. Haddad：イラン、R. Kell：豪州、  
E. Mushi：タンザニア、武内正博：日本、  
(理事会)A. Bentejac：フランス、(FIDIC 事務局)S. Fossati、I. Goyzueta、F. Baillon、(オブザーバー)I. Chung：韓国(Seminar-8のプレゼンター)



FIDIC2012 ソウル大会において、CBC 委員会が開催された。同委員会では、以下の8項目について討議が行われた。

### 1. 2011年ダボス大会のミニッツと取るべきアクションの確認

前回大会で協議した項目について、それぞれアクションの確認があった。

### 2. Capacity Building (CB) パンフレット 2012年版の配布

CB パンフレット 2012年版が完成した。これは2001年版の改定版である。このパンフレットにより、CB活動を普及させることが期待される。このパンフレットの内容は、各FIDIC委員会も関係していることから、EC(理事会)、Contract委員会、Business Practice委員会、MA委員会などの承認を得たものである。本大会のFIDICブースで配布される。また、Web Siteでも入手可能となっている。

### 3. 提案された一 Mentoring Program (新人教育) プログラム

昨年3月、CBCからFIDIC会長と事務局長にメンタリング・プログラムの概念と構成についての草案が提出

されたが、その後、あまり進捗がみられない。草案はFIDIC理事から承認されたので、次のステップは、本プログラムと現在のFIDICの活動をどのように結び付けていくかであるが、今後、討議が必要である。

### 4. G2P利用・更新を含めたFIDICトレーニング活動

昨年、CBCが実践ガイド(Guide to Practice: G2P)に関してどのような役割を果たすのかを議論したが、はっきりしなかった。その理由はG2P文書及びその活用方法について、明確な解答をもっていなかったからである。

### 5. CE企業の調達・雇用向上に向けて顧客及び非CE企業からいかに理解を得るか

この課題については、2013年の年次総会でトピックとして扱うことになっている。今年完成したCBパンフレットも一つのツールとして活用できるのではないかと。他には、顧客としての政府機関関係者の研修プログラムをFIDICが開発するというのも一つのアイデアである。

### 6. 他のFIDIC委員会との協調

各委員会が調整を図っていくことが、今後ますます重要になっている。EC及び事務局が主導的な役割を果たしてもらいたい。

### 7. CBCからの退会及び新メンバー

CBCの新メンバーとしては、南米から代表一名を選定することで合意された。候補としては、ペルー、チリ、コロンビアから1、2名の候補が上がっている。Young Professionalから選定するのも一案。事務局の方で、今年中に選定したい。

Therkelsen委員長が、今年定年を迎えて、本大会で委員長を降りることになった。新委員長については、EC(理事会)に一任することになった。

### 8. Seminar-8のプログラムについて

Seminar-8のプレゼンターの一人であるMs. Inhee Chung(韓国)がプレゼンの内容を説明した。また、Henning委員長が他の2人のプレゼン内容について、概要を説明した。CBC委員からは、得られた教訓(Lesson Learnt)を入れた方がよいとのコメントがあり、同コメントに沿ってプレゼン内容を修正することになった。

以上

## 特集：FIDIC2012 ソウル大会報告

FIDIC YPMTP (Young Professional Management Training Program)  
2012 参加報告八千代エンジニアリング株式会社 国際事業本部 都市環境部 廃棄物計画課  
主任 松原ひろみ

## 1. はじめに

本稿では、2012年2月から9月にかけて実施された FIDIC YPMTP (Young Professional Management Training Program) 2012 への参加結果を報告する。

このプログラムは、世界の若手コンサルタントを対象としており、FIDIC White Book の理解だけでなく、実社会で直面するコンサルタント業界における課題を議論し、コンサルティングサービスのマネジメント技術の育成や新たなアプローチの開発、リーダーシップやコミュニケーション能力の育成、文化的差異の理解、及びコンサルティング業界の国際的ネットワークの形成を目的としている。

参加者はアジア、ヨーロッパ、オセアニア、中東、アフリカ等の約20か国から、54名が参加した。我が国からの参加者は筆者一名であった。

プログラムはインターネットTV会議をベースとした Web セッション及びソウル本大会に先立って全参加者が集まって実施された総括セッションの2つで構成された。

Web セッションは、2012年2月から8月までの7カ月に月1回実施された。全参加者は時差等が考慮されて3つのグループに分けられた。

総括セッションは7日間あり、最終日にソウル本大会のプログラムに組み込まれた「Future Leaders Workshop」において本プログラムの成果を発表した。

## 2. Web セッション

Web セッションは、以下の3つのテーマに沿って実施された。

- Case 1: Organization and Human Resource Development
- Case 2: Creating a Business Development Framework
- Case 3: Business Development Instruments

各テーマにおいて、YPMTP Mentor Board のファシリテーター(メンター)より例題及び議論のポイントや質問が事前に示された。参加者は自分の意見や他の意見へのコメントを書き込み、持ち回りで代表者が内容をとりまとめる。Web セッション当日はメンターを中心に議論・

考察を進めた。

## 3. ソウルでの総括セッション

1日目から3日目は、メンターによる Web セッションの簡単なレビューと追加説明の後、テーマ毎にグループディスカッションが実施された。テーマは以下の6項目であった。

- Ownership models, philosophy and human resources
- Marketing strategies
- Financial management in relation to fee models
- Sustainability strategies illustrated by project examples
- Integrity management
- White book cases

Web セッション同様、各グループディスカッションの最後は持ち回りで代表者が議論内容を発表し、全体での議論が実施された。

4日目から6日目は本大会の「Future Leaders Workshop」のための準備に当てられた。発表テーマ及び内容は自由であったため、「本大会のテーマをどう捉えるか」、「プログラムの成果をいかに表現するか」、「Young Professional に何が求められているのか」等を踏まえてグループ及び全体で協議した。発表テーマ案として以下の項目が抽出された。

- Be Champions of sustainability
- Maintain and improve the integrity of our industry
- Manage cultural dilution
- Value of engineering
- Drive innovation
- Multi-disciplinary corporations
- Promote a balance between technical and management professionals
- Learn ways to adapt with technological changes
- Improve communication within our industry and with organizing bodies

更なる議論の結果、発表テーマを「Agents of

Change」とし、サブテーマを「Value of engineering」、「Drive innovation」及び「Champions of sustainability」の3つとした。その後、グループ及び全体ディスカッションを何度も重ね、幅広い地域性をアピールすることを考慮しつつ、参加者が考える課題や提言をまとめた。

総括セッションの最終日(本大会の2日目)では、イントロとして各国のコンサルタントが直面する課題を各国の言語を用いて全員で発表し、その後、代表者4名によりプレゼンテーションを実施した。要点は以下の3点にまとめられる。

- オークストラの演奏者ではなく指揮者であるように、若手技術者自らがリーダーシップをとり、後ろに控えるのではなく、前に出て積極的に社会にアピールする
- 若手技術者が自らを変えていくと同時にコンサルタント業界や周囲の環境を変えていく原動力となり、コンサルタントの新しい価値を創り出し、新たなアプローチを模索していく
- 異なる分野・立場・文化を尊重し、それぞれが考えるコンサルティングサービスのSustainabilityを実現させるようにチャレンジする

#### 4. 終わりに

本プログラムを通じ、筆者が最も感銘を受けたのは、参加者の技術分野や文化等、それぞれ置かれている立場は異なっていたものの、抱える課題や目指すべき姿がほぼ共通していたことである。

研修の内容の中には、筆者の日常業務では考える機会が少ない課題もあった。しかしながら参加者の多くは日ごろからそのような課題に取り組んでいるようであり、自分自身の視野を広げる必要性を感じた

総括セッションの最終日で「各国のコンサルタントが直面する課題」として筆者が述べたのは「国際的な発信力・コミュニケーション能力の不足」である。プログラムや議論の内容は、我が国でも議論・提言されていることが多く見受けられた。しかしながら、その認知度や国際的な位置づけは高いように感じなかった。また、この課題は筆者自身がプログラムを受講して痛感したこともある。Webセッションでは事前準備の時間があつたが、

総括セッションではその場で意見をまとめて議論に加わっていくことが求められた。日を追うごとに積極的に発言できるようになったものの、他の参加者に比べて発言は少なかったと反省している。国際的な発信力は筆者含め、我が国の若手技術者がチャレンジすべき課題の一つかと考える。

最後に、このような機会を与えていただいた公益社団法人 日本コンサルティング・エンジニア協会及び八千代エンジニアリング株式会社の上司・同僚には、多大な謝意を申し上げる。



講義の様子



グループディスカッションの様子



総括セッション後のメンターと参加者



## シリーズ・FIDIC 会員協会の紹介 第9回

## ブラジル協会

## Associação Brasileira de Consultores de Engenharia (ABCE)

広報委員会 編

## 1. 沿革

ABCE (Associação Brasileira de Consultores de Engenharia) 設立は1966年に遡る。ブラジルのコンサルタント業界は当初交通セクターが牽引し、続いて電気エネルギー・石油関連の大型事業が相次いで行われ、コンサルタント企業の技術と経営の両面での発展成長を支えた。さらに上下水道セクターの拡大が専門性の高いコンサルタント企業の増加に繋がったという経緯がある。

そうした中で ABCE はコンサルタント企業同士を結ぶ核となり、業務経験の交換や共同解決すべき障害・課題を特定するといった機能を担い始める。また、研究活動や提案作成を通して関連法令の改定を働きかける一方、契約者や公的機関による違法行為に対し訴訟を起こしたコンサルタント企業の代理役を引き受けるようになる。

長期の経済低迷を経るなど幾多の危機にさらされてきたが、設立 45 周年の節目を越えた。今後もコンサルティング企業のために決定的な役割を引き受け、業界の価値向上に励みながら、常に企業の技術向上につながるプログラムを支援していく。

## 2. 組織

本部はリオデジャネイロにある。会員は企業 112 社、個人 5 名で構成される。理事会の会長は Mauro Ribeiro Viegas 氏。理事会社は 25 社。

## 3. 協会の基本姿勢

エンジニアリングのノウハウを必要としている投資家を導き、ブラジルのエンジニアリングの価値向上を促進すること。

そのため、コンサルタント会社のサービスを求める顧客とも緊密な関係を維持しながら、コンサルタント会

社の適切な選定・契約に関する情報や知見を提供する。

## 4. 主な活動計画

(HP に掲載されている 2009-2010 のアクションプランから抜粋)

- エンジニアクラブと共に業界の価値を高めるため、国会議員連盟の再活性化を目指して働きかける。
- 公共民間の顧客と共にコンサルタント会社の正しい活用、及び適切な報酬の徹底化のため活動する。
- ABCE 設定のエンジニア報酬料金の維持と普及に努め、改定していくための調査研究を行う。
- 顧客や外国のコンサルタント、金融業者らを招いたコンサルタント業に関する会合やセミナーを積極的に開催していく。

## 5. ホームページ、及び連絡先

<http://www.abceconsultoria.org.br>



Av. Rio Branco, 124 - 13o andar - Edifício Clube de Engenharia CEP 20148-900 - Rio de Janeiro - RJ - Brasil.

Tel.(55 21) 2215-1401

E-mail: [abce@abceconsultoria.org.br](mailto:abce@abceconsultoria.org.br)

## シリーズ・海外だより その11

### ・・・なアルメニア

OYO インターナショナル株式会社

塩 飽 孝 一

2011年から、アルメニアの首都であるエレバン市の地震防災のプロジェクトに関わっている。それまでほとんど意識しなかった国。初めて国名を聞いたかもしれない。渡航を言われた時は、アフリカに行くのかと思ったほど(アルジェリアと勘違い)。そんな間違いをする人はそうそういないでしょうが、あまりイメージの湧かない国ではないでしょうか。

グルジア、トルコ、アゼルバイジャン、イランと国境を接しているアルメニア。一人あたりのGDPが3,032 USD (2011年：IMF)、世界で初めてキリスト教を国教とした。モンゴルに侵入された経験を持ち、モンゴル人の顔をしたキリストが描かれた石の壁もある。大虐殺も経験したアルメニア。ノア方舟で有名な、アルメニア人の心の山「アララト山」はトルコにある。宝石加工が主な産業。為替レートの変動が大きい。世界一危険と言われる原発があるアルメニア。

世界的にはコニャックとは名乗れないが、コニャックが有名なアルメニア。打合せの終わりにコニャックを飲ませてくれる。帰国間際の打合せの時にお酒が好きだと言うとおみやげにコニャックをくれる。

美人が多すぎる、でも、日本人から見てカッコいい人は少ないアルメニア。男性は黒っぽい服ばかり着る。男性の髪型はみな短い。日本人かと尋ねられ、日本人だと答えると急に笑顔になる人がいるアルメニア。マンホールの蓋がきちんと閉まっていない。そのマンホールに足をひっかけ転倒した日本人に手を差し伸べてくれるおばちゃんや少年がいる。でも、水をかけるお祭りでカメラを持っている日本人に容赦なく水をかける。スーパーで買い物をしていると勝手にワインをかごに入れてくる女性店員がいる。卓球のアルメニア代表になれそうだという青年がワッフル屋さんで働いている。ちょこちょこ血液がRH-の人と出会うことがある。名字の最

後がyanで終わる人がとても多いアルメニア。

資金がないからできることから行動していくのだと言う政府の人がいるアルメニア。その人は、会いに行くと進捗をうれしそうに話す、アイデアをたくさん持っている人。教育を通して安全な社会を構築していくことを考えている人。

大学の教授でもあまり給料がよくないアルメニア。博士課程は就職できなかった人が行くところだと言う人もいる。博士を取っても就職できない人もいるらしい。国内経済状況がよくないので家族で海外に移住しようとしている人がいる。簡単には経済状況を変えることはできないが、アルメニア人は能力がある、人々の意識を変えることによって、アルメニアの経済は変えることができる、私は会社を作ったが、それが目標だ、自分の国を放って海外に移住するなんて考えられないと言うモデルとしてスカウトされたこともある若い女性がいるアルメニア。

もっと発展してほしい、安全で安心な社会を作ってほしい、この国ならそれを実現できるのではないかと思います国、アルメニア。



写真：ジェノサイド博物館

## 倫理委員会

### 会員企業 CSR インタビュー報告 (八千代エンジニアリング株式会社)

#### 倫理委員会

倫理委員会の活動のひとつとして、会員企業の CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) に関する情報を共有し、CSR の意識向上と活動促進に寄与することを目的として、会員企業の CSR に関するインタビューを実施しています。第5回のインタビューは、八千代エンジニアリング株式会社 (yec) にお伺いいたしました。以下その結果要点を示します。

八千代エンジニアリング株式会社は、次の経営理念を掲げています。

人間性の尊重と全員参加の経営を基本として

1. 顧客の信頼に応え、その要求には誠実に答える。
2. 技術の研鑽により能力、能率の向上に努める。
3. 優れた業績成果によって信用の定着と拡大をもって社業の発展を図る。
4. 事業の実施と技術を通して社会に貢献する。

この経営理念に基づき、同社は2005年に企業行動規範を制定しました。この行動規範の根底には、次のような認識があります。

「いま企業は、不祥事の続発に加え、市民社会の価値観の変化を受けて、企業活動のあり方を企業の社会的責任 (CSR) の観点から見直すよう求められています。従来の企業活動の目的は競争性および効率性を追求して利益の増大を図ることでしたが、これらの行き過ぎが企業倫理を踏み外すことに繋がったように思われます。これからは「競争性」「効率性」の追求に加えて、法律の遵守はもとより人権の尊重や社会との調和、環境問題への取り組みなど「人間性」および「社会性」への配慮が必要であり、これによって初めて真の意味での健全な企業活動が可能になると考えられます。即ち「競争性」「効率性」「人間性」「社会性」の4要素をバランス良く保つことが企業発展の要諦であると言えます。」(同社 HP から抜粋)

同社は、5年毎に長期経営計画を定めていますが、こ

の中にも上記の4要素を取り込み、人間性や社会性も競争性や効率性と同等に位置づけています。社会性のカテゴリの中には、顧客満足の向上、社会貢献、遵法の徹底、広報効果の向上などが挙げられています。長期経営計画に基づく期毎の経営計画では、毎年各部所で4要素ごとに目標を設定し、年4回、各事業部所および本店部所を対象に社長ヒアリングを実施しています。内1回は支店に社長が赴き、社員との懇談会を行っており、誰でも社長と話せる機会を設けています。ここにも、経営理念にある「人間性の尊重と全員参加の経営」が生きています。

社会貢献につながる環境・社会活動については、同社の HP で紹介しています。また、HP の「毎月お届けするちょっといい話」でも社内外に多数の活動が広報されています。その中から2つほどご紹介します。

#### <環境>

○『山原(やんばる)の森』沖縄・マングース防除事業 (外来種対策)

2010年秋、名古屋の COP10 会場の隣では『生物多様性フェア』が併催され、同社が沖縄で展開しているマングース防除事業 (外来種対策) のビデオも放映され、HP で公開されています。



ヤンバルクイナ





マンガース

### <災害復興支援>

#### ○小学校に井戸を贈る

東日本大震災の直後から、断水により多くの人が大変な生活を強いられました。災害復興に欠かせない水を求め、地下水を専門とする教授をリーダーとして、yecを含む数社のボランティアチームが取り組み、生活水を確保すべく実施した岩手県内の小学校での井戸掘りが紹介されています。

また同社のユニークな活動として、広く市民に建設コンサルタント業界を知ってもらうために、2010年から2012年まで地下鉄(都営浅草線)に広告を掲載しました。乗客に問いかけを発信し、同社のHPにアクセスしてもらい、解決法を紹介するというアイデアです。2つほどご紹介します。

### Q.不足する電力 これからのエネルギーをどうする？



これに対し、同社のHPで下記のように小水力発電を提案しています。

yecはこうした→「知られざる身近なクリーンエネルギー」

東日本大震災の被災地では、燃料不足・停電の中で移動手段もなく、不自由な時期を経験された地域も多くありました。水流さえあれば発電できる小水力発電の設備があれば停電も回避できたかも知れません。安心・安全で持続可能な社会を形成するために小水力発電分野でyecがどのように取り組んでいるかが紹介されています。



地下水を掘り当てた瞬間  
揚水状況(毎分40リットル)写真提供:(株)日さく



**Q.サイクロンの猛威からバングラディッシュの国民の尊  
い命をどう守る？**



これに対し同社のHPで、普段は小学校として使う「サイクロンシェルターの建設」が紹介されています。

**<終わりに>**

倫理委員会による会員企業へのCSR活動インタビューの第5弾として、八千代エンジニアリング株式会社を訪問しました。同社では、人間性と社会性を重視したバランスのとれた企業経営を長期経営計画に反映させ、社長と社員の懇談会などを通じて、役員社員が協力してひとつの方向に進む社風づくり、信頼関係づくりを目指す全員参加の経営を行っています。また、同社は「市民に業界を知らせる」という観点から、地下鉄に広告を出すというユニークな活動にも取り組まれている点が印象的なインタビューでした。

## 技術研修委員会

### 若手技術者発表会 YP大賞 若手交流会 AJCE 夜会

#### AJCE 技術研修委員会 Young Professional 分科会

##### ■若手技術者発表会 YP大賞

日時：平成24年8月29日(水)14:30～18:00

会場：建設技術研究所 会議室

参加人数：41名



##### ■若手技術者交流会 AJCE 夜会

日時：平成24年8月29日(水)18:30～21:00

会場：ランコントレ・トント(人形町)

参加人数：43名



(公社)日本コンサルティング・エンジニア協会(AJCE)の技術研修委員会若手技術者(Young Professional: YP)分科会では、若手コンサルティングエンジニア(CE)の育成や国内外のネットワーク作り、学生向け啓蒙活動などを行っています。

この活動の一環として、会社や団体における若手発表

会や若手主体の活動を発表する場として、『若手技術者発表会 YP大賞』を企画しました。また、YP大賞終了後は恒例の若手技術者交流会『AJCE 夜会』を開催しました。いわゆるダブルで若手ネットワーク拡大企画です。

##### ■若手技術者発表会 YP大賞

発表会には以下の8社がエントリーしてくれました。各社それぞれ気合の入った盛りだくさんな発表で非常にすばらしい発表会となりました。誌面の都合上、極々に簡単に報告します。

#### 1. PTM ワーキンググループ：(株)森村設計

「9.11 震災後、自分達には何ができるか？」がきっかけ。様々な活動の中、特に、ビル屋上にリアルタイム電力モニターを設置し、エネルギー使用量を見える化し節電効果(夏季で－34%)を実数値で示した活動ははすばらしい。設備屋ならではのと感じた。実行力が伺える活動である。既に会社に利益をもたらす活動となっているのもさらに良い。

#### 2. 景観ゼミの取り組みについて：(株)建設技術研究所

「東京のまちや川を巡る活動」を実施して3年。多くの活動の中、特に隅田川にかかる橋について、いかだで川を下りながら、先輩職員から技術者の視点で説明を受け、橋を下から仰ぎ見る。イメージするだけでワクワクした。是非参加したいイベントの一つである。東京の活動が大阪に拡大しているのも良い。

#### 3. 若手社員が自主的に実施しているコミュニケーション研修の取り組みについて：(株)長大

「新人研修は人事部が行うもの」と高をくくっていた。それを若手自身が、自らの経験を新人に語る。すばら

しい試みである。3月の納品ラッシュの中での下ごしらえ。さぞ大変だろう。同じ立場として身にしみる思いである。大変なことは百も承知で実践していると推察する。是非とも今後も継続していただきたい。

#### 4. 国内部門の若手技術者向け海外研修事業：八千代エンジニアリング(株)

「海外プロジェクトへの若手派遣による経験値アップ」を目指す研修制度。若手も含めた海外進出は、今後の日本のCE業界全体の大きな課題である。その意味でこの制度は重要である。しかし、こと本発表会においては「若手が発案かつ主体的な活動」という趣旨と異なるところが残念だった。

#### 5. 平成23年度下水計画管路部・施設部若手勉強会：(株)日水コン

「ON-JOBだけでは知り得る知識に限られる。技術士試験など、もっと多くを学びたい。」という若手の“もっともっと”という欲求・好奇心を形にして2年。自由度を重視して、先輩職員の講義形式ではなく、講師として自らが調べ、報告(発表)、質疑対応して鍛える形式が非常に良いと感じた。それに対して、先輩職員が経験的な視点から、内容を補足するような参加方法もすばらしい。

#### 6. CTII社内勉強会：(株)建設技研インターナショナル

海外を主戦場とする会社の若手ならではの「海外での先輩社員の経験値(苦労談、失敗談など)を共有する場」として昨年からは開始。毎週金曜午後1時間半。テーマは、南米・アフガニスタンの文化など、海外業務に携わる上で必要な要素となっている。個人的には“JICAの素顔”を聴講してみたいと思った(どんな顔?)。また、今後海外へ展開する際の海外経験の共有化の一手法としても興味深い発表だった。

#### 7. 社有地“おおとの森”における里山利用を介した人的交流・人材の形成：日本工営(株)

社有地「おおとの森」の活用方法を若手主体で検討。里山体験としてタケノコ狩り(2010～)、米作り(2011～、手植え→稲刈り→精米→実食)を実践中。他に、竹を実

際に切り倒す作業など、その大変さから施設を維持管理する大変さを実体験でき、楽しみながら経験値を上げる一石二鳥な試みにうらやましさを感じた。個人的にも是非参加してみたい。惜しくも本発表会では入賞を逃したが、夜会アンケートではみごと1位!

#### 8. 創発塾：スーパー開発コンサルタント養成講座：(株)オリエンタルコンサルタンツ

冒頭、会場にどデカイ声が響き渡った……。失礼笑ってしまった。発表会開始から早3時間半。最後か～と感じたその瞬間、「みなさん、起立!隣の人とペアになって肩を叩いて～」の声。この時の体操の気持ち良さは忘れられない。さて、創発塾は、とにかく楽しく学ぶ、をモットーに発足、原則飲みニケーション付である。内容は、「オリコンの挑戦」から「南アフリカの資源投資」、「弁護士講師による交渉術」など多岐に渡る。「大根踊り」もインパクト大!運動を伴う記憶は長期記憶となる。本当にすばらしい。

以上の発表について、5つの審査基準(活動の趣旨、自主性、継続性、効果、プレゼン能力)でAJCE理事3名が厳粛な審査を行い、YP大賞、YP準大賞×2の3社が選出されました。第1回大賞は、建設技術研究所が受賞しました。上述しましたとおり、魅力のあるプログラムで技術者の好奇心に訴える活動でした。おめでとうございます。



YP大賞  
『景観ゼミの取り組みについて』  
(株)建設技術研究所



YP 準大賞

『創発塾 スーパー開発コンサルタント養成講座』  
(株)オリエンタルコンサルタンツ



YP 準大賞

『平成 23 年度下水計画管路部・施設部若手勉強会』  
(株)日水コン

## ■若手技術者交流会 AJCE 夜会

AJCE 夜会は今年で 3 回目。今年も AJCE 会員企業の 20 代～30 代の若手 40 名以上に参加いただきました。参加者の専門は、橋梁・道路・交通・鉄道・電力・上下水道・河川・環境・防災・生態学・衛生管理・農業経営と多岐に渡りました。

夜会参加者からは、毎回「日頃、同業他社との交流は少なく、今回の交流会では各社の特徴や互いの専門分野などについて情報交換ができ、非常に有意義だった」との感想が聞かれ、この交流会の趣旨のひとつである「若手技術者間のネットワークづくり」につながる活動になっています。



## ■若手意識調査

夜会では毎回アンケート形式による若手 CE の意識調査も実施しています。今回の回答数は 29 人（男性：23 人、女性 6 人、回答者の平均年齢 31 歳 各問い複数回答）。

なぜ、CE の職業を選んだかの問いに、「CE の仕事に興味があった 20 人」「海外勤務が出来る 6 人」。CE 業界の改善点については、半数以上が「一般的な認知度が低い 18 人」と「残業が多い 17 人」と回答。過去 2 回と同様の傾向でした。

若手 CE の育成に関する問いでは、若手 CE 育成に寄与している要因として「上司・先輩の指導 7 人」と「自分で勉強・努力 6 人」がほぼ同数の回答でした。過去 2 回は「上司・先輩の指導」が「自分で努力」よりも多かったことを考えると、興味深い結果となりました。また、「社内教育システム」を挙げたのは 0 人で、社内での取り組みも減ってきているのかもしれませんが、もしくは、若手 CE にまだシステムが浸透していない可能性があります。

尚、今回のアンケートは、YP 大賞発表会に参加したメンバーのほとんどがそのまま夜会に参加してアンケートに回答していることから、上記結果は、自分を向上させる意識の高い若手技術者が集まったことが要因の可能性もあります。実は平均的な回答ではないのかもしれませんが。次回もこのような自主性が高い傾向のアンケート結果が見られると、CE 産業の未来も明るいかもしれません。

最後に、今回 YP 大賞発表会を開催でき、そして大成功といえる盛況ぶりに終えることができたことに非常に喜びを感じています。また、夜会では、森村設計の皆さま



んから、YPフットサルリーグの呼びかけもあり、交流が広がりをみせています。あの勢いからしてまず実現することでしょう。楽しみです。

YP分科会では、2012年10月15日から始まる日豪若手技術者交換研修2012(YPEP: Young Professional Exchange Program)でのイベントを企画しています。11月2日には、豪州の若手技術者11名との討論会『ヤン

グサミット』が日水コン会議室で開催されます。興味を沸いた方は是非ご参加下さい。(詳細はAJCEホームページをご覧ください。)

今後もYPの皆さんのために、そして私たち委員自身にとって、有意義な活動を実施していきたいと考えていますので、積極的なご参加をお待ちしております。

## FIDIC セミナー報告

### FIDIC Asia-Pacific Contract User's Conference 2012 参加報告 シンガポール

日本工営株式会社 契約管理室長

アジュディケーター委員会副委員長 技術研修委員会副委員長 林 幸伸

#### 1. 概要

FIDICでは、欧州、中東、アジア、米国などの地域においてFIDIC契約ユーザーを対象としたワークショップを毎年開催している。イベントの目的は、講演者がFIDIC契約書に関わる多面的なプレゼンテーションを行い、参加者からの質問やコメントを通してFIDIC契約書の正しい運用についての理解を深め、更には契約書の改善につなげることにある。今回の会議はアジア・大洋州地域をターゲットとしたもので、2009年に香港で初めて開催されて以来4回目にあたる。今年(2012年)は6月20日～21日にシンガポールで開催され、講演者15名を含む約90名の参加者を集めた。講演者は、英国やドイツなど欧州からの契約専門家に加え、豪州、ニュージーランド、香港、シンガポール、日本、インドネシア、マレーシアなどからも多数参加があり、ローカル色豊かなイベントであることが本会議の特徴となっている。



#### 2. プログラム

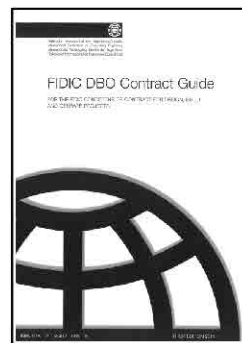
##### 1) 全体プログラム

FIDIC契約委員会委員長のPhillip Jenkinson氏のチャエのもと、14のセッション(各約1時間)が2日間に亘り行われた。主なテーマは、「FIDIC契約約款の改訂状

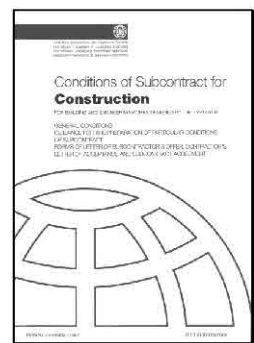
況」、「デザインビルド契約」、「クレーム処理」、「FIDIC調達ガイド解説」、「設計・施工・運営契約(ゴールドブック)」、「EPC/Turnkey契約」、「エンジニアの役割」、「ディスプレイボードの活用」、「仲裁」、と幅広く設定されていた。

##### 2) FIDICの新しい契約約款

最近出版されたドキュメントとして、「DBO Contract Guide 2011(ゴールドブック解説書)」と「Conditions of Subcontract 2011(下請工事契約書)」が参加者に配布され、内容の説明がなされた。



DBO Contract Guide 2011  
AJCE コード【CO-24G】



Subcontract 2011  
AJCE コード【CO-31-2】

改訂作業が進行中の契約書は以下の通りである。

##### ■ 1999年版契約条件書

Red Book 1999、Yellow Book 1999、  
Silver Book 1999

##### ■ Joint Venture Agreement 1992 (コンサルタントJV契約書)

##### ■ Sub-Consultancy Agreement 1992-Rep.1998 (コンサルタント下請契約書)

1999年版契約条件書の改訂については、先ずYellow Bookが発行されるということである。改訂については数年前から話題になっているが、そのタイミングについて

は未だ少し時間を要する模様である。

また、今後以下の契約書が新たに編纂される予定であることが報告された。

■デザインビルド主契約用の下請契約書

■運転・設計・建設契約書(ODB契約、ブラウンフィールドの開発案件用契約)

■トンネル工事用契約書

### 3) JICA のディスピュートボード普及活動の紹介

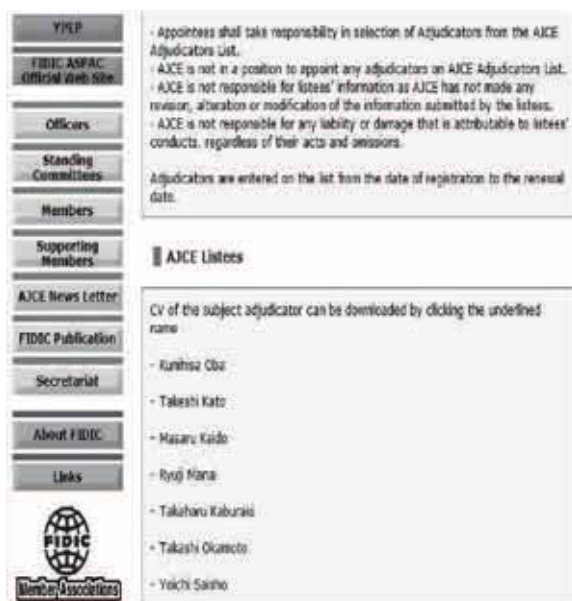
「Successfully Using DABs in Asia Pacific & Internationally」というテーマのセッションにおいて、独立行政法人国際協力機構(JICA)調達監理課の伊藤隆司課長がDispute Board(ディスピュートボード、紛争裁定委員会)普及に関わるJICAのこれまでの活動実績について報告された。引き続き、筆者は2011年5月に公開されたAJCEのアジュディケーターリストについて、AJCEアジュディケーター委員会として設置の背景と登録に至るプロセスを紹介した。アジア・大洋州地域における第一号リストということもあり、参加者から高い関心を得ることができた。別のセッションにおいてマレーシアからの講演者がAJCEリストに言及するなど、AJCEリストの知名度も徐々に上がってきていることを感じた。

### 4) エンジニアの役割

1999年版契約条件書以降、契約紛争の裁定機能はエンジニアからディスピュートボードに移行されたが、Contract Administrator(契約管理者)としてのエンジニアの役割はプロジェクトの推進のために依然として大変重要であることが、随所で言及された。特に、Red Book 1999やYellow Book 1999の3.5条におけるクレームに対する「公平な決定」は、エンジニアに課せられた重要な責務であることを肝に命じたい。

## 3. 所感

筆者はこれまでにこの会議には3回参加しているが、会議の内容は回を追うごとに充実してきていると感じる。その一方で、日本からの参加者は毎回1~2名に留まっております寂しい思いがする。このイベントへの参加の意義は、FIDIC契約の知識習得だけではなく、アジアを中心とした参加者とのネットワーキングの機会であることも大きい。国際展開やグローバル化といった潮流の中で、日本の建設関連産業のプレゼンスを高めるためにも、来年はより多くの方が日本から参加されることを期待したい。(了)



アジュディケーター AJCE リスト  
<http://www.ajce.or.jp/en/Adjudicator/Adjudicator.html>

## FIDIC セミナー報告

### FIDIC MDB Construction Contract Conference 2012 参加報告 ブリュッセル

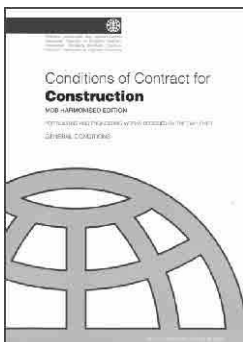
日本工営株式会社 契約管理室長

アジュディケーター委員会副委員長 技術研修委員会副委員長 **林 幸伸**

#### 1. 概要

FIDIC では、世界銀行などの国際開発金融機関 (Multilateral Development Bank, MDB) が建設契約に採用している MDB Harmonised Construction Contract (以下、MDB 契約書) に焦点を当てた会議を、昨年より開催している。本会議の目的は、国際開発援助プロジェクトにおけるデファクトスタンダードとなっている MDB 契約書の利用者が集い、利用状況、契約面の課題、契約書の改善提案などを議論・共有し、プロジェクトのより円滑な遂行に資することにある。今回は2回目であり、FIDIC 発祥の地であるベルギー・ブリュッセルにおいて 2012 年 6 月 25 日～26 日に開催された。会議には、国際開発金融機関 (世界銀行、アジア開発銀行、アフリカ

開発銀行、欧州復興開発銀行)、国際機関 (ILO、OECD、ICC)、発注者機関、コンサルタント、コントラクターから約 80 名が参加し、国際色豊かであった。また、FIDIC からは、Geoff French 会長、Enrico Vink 専務理事、Philip Jenkinson 契約委員会委員長、Richard Kell 元会



Red Book MDB 2010  
AJCE コード【CO-13】



長、Jorge Padilla 元会長ら幹部が参加された。

#### 2. プログラム

##### 1) 全体プログラム

会議は、12 のセッションから構成され、総勢約 20 名のスピーカーがプレゼンテーションを行い、フロアとの活発な議論が展開された。冒頭に Philip Jenkinson 氏より昨年の会議における課題は、「エンジニアの役割」、「Dispute Board (ディスペュートボード、紛争裁定委員会) の利用」、「仲裁条項の改善」、「腐敗防止条項」、「EU における MDB 契約書の活用」であったことが総括され、今回の会議においてもこれらのテーマがプログラムに色濃く反映されていた。尚、プレゼンテーション資料は FIDIC のウェブサイト (<http://fidic.org/node/841>) で閲覧が可能である。

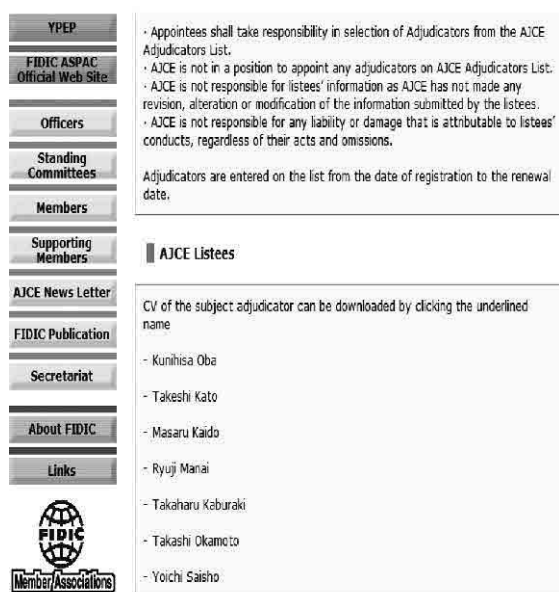
##### 2) エンジニアの役割

シンガポールにおける会議と同様に、建設契約上の権限執行におけるエンジニアの公平性や施工監理における技術力・マネジメント能力の重要性が強調されていた。

##### 3) ディスペュートボードの普及

各 MDB より Dispute Board (ディスペュートボード、紛





### アジュディケーター AJCE リスト

<http://www.ajce.or.jp/en/Adjudicator/Adjudicator.html>

争裁定委員会)の普及は未だ途上であり、その紛争予防機能について関係者の理解を深めることが、今後の普及の鍵になることが指摘された。ディスピュートボード普及に関わるJICAの活動については、日本におけるアジュディケーター審査パネルを務めたSebastian H?k氏が報告を行った。また、これを受けて筆者はAJCEのナショナルリスト設立の経緯についてプレゼンテーションを行った。他のスピーカーの講演の中でも、独立行政法人国際協力機構(JICA)が本年4月に公開したDispute Board Manualが引用されるなど、JICAの先駆者的な活動に対して称賛する声が数多く聞かれた。

#### 4) 腐敗防止

公共調達における腐敗防止対策として、英国のBS10500 (Anti-bribery Management System)の概要が解説され、今後ISOに取り入れられる動きもあるとのことであった。Jorge Padilla 元会長からはFIDIC Integrity Management System (FIMS)の有効性について説明がなされた。また、コンサルタント契約用のFIDICの新しい「Model Representative Agreement (2012)」及びMDB契約書における腐敗防止条項について説明が行われた。

#### 5) FIDIC 契約書とプロジェクトマネジメント

Richard Kell 元会長より、MDB契約書とプロジェクト

マネジメントシステム(品質保証システム、環境管理システム、安全管理システム、Social and Gender Awareness Plan)との関係性が解説され大変興味深かった。また、これらシステムを運用するためのコストを、出来る限り契約書の支払項目として特定しておくことが、システムの確実な運用を担保することになるとの説明があった。

### 3. 所感

本イベントは、国際金融機関、発注者、コントラクター、コンサルタントといった日頃からMDB契約書に関りの深い当事者が一堂に集まり、プロジェクトにとってより良い契約書のあり方について知恵を絞るというユニークな場である。国際開発援助スキームにおけるFIDICの影響力の強さに直に触れることができ、非常にエキサイティングな経験であった。また、会議の終了後に、ブリュセルの食べ物横丁と呼ばれるイロ・サクレでFIDICの歴代の会長とベルギー料理を堪能できたことは忘れ難い思い出となった。



## 国際活動委員会

### Bribery Act 2010 概要

訳責：国際活動委員会 CB 分科会

Bribery Act 2010(2010年英国贈収賄防止法、以下「贈収賄法」と略す)は2010年に成立し、2011年3月にガイダンス最終版が公表され、2011年7月1日に施行された。贈収賄法では、Bribery(贈収賄)の定義が改められ、公的機関のみならず、企業側に対しても広く適用し、罰則、罰金が厳しく科せられている。この法は、英国の贈収賄に関する従来法を根本的に見直し、自国もしくは外国で行なわれた贈収賄を処罰の対象とした単一の法律に改正し、再構築したものであり、英国のみならず国際的に贈賄と戦うための法体系となっている。

この贈賄法では次の4つを違法行為と規定している。

1. 直接的な賄賂：金銭的もしくは便益を提案、約束もしくは供与すること
2. 間接的な賄賂：金銭的もしくは便益を要求、受領もしくは受領を同意すること
3. 外国の公務員への賄賂
4. 会社などにおいて、関係者による賄賂の防止ができなかった場合

罰則は、従来法では、最長7年の禁固刑もしくは無制限の罰金が科せられていたが、この法では、禁固刑は最長10年に改められた。法の適用範囲は制限なしとしており、関連する人物、会社が英国外でその犯罪行為がなされた場合も訴追することができる、としている。贈収賄法は英国市民、住民及び英国法下で設立された会社に適用され、さらに、非英国の会社でも英国内で業務

を行っている場合、賄賂を防止できなかったことへの責任を負わされる。

会社は、雇用者もしくは関係者によって引き起こされた贈収賄に対しても法的処分を受ける場合がある。そして、会社もしくは企業体は、経営者レベルにおける贈収賄法の順守をしなければ、罪に問われることになる。仲介者を通して行った場合も同罪となり、役員レベルの贈賄に対して見ないふりをした上級社員に対しては、個人として責任が問われる。さらに、会社もしくは企業体は雇用者もしくは関係者によって業務上の行為として、第三者に対して仕事を受注できるとか、継続できる、というような有利な状況が期待されたり、業務遂行上有利になるようなことがあったり、それが継続されたりする場合、たとえ、実行者がそのことを知らなくても、罪に問われる。会社は、贈賄から身を守るためには、関係する人は誰であれ、そのような行為をしない様に適切な手順(マニュアル)を持って、実施していることを公表する必要がある。

贈収賄は、英国の職場、自宅、そして海外でも、あってはならないものであり、この新しい法は、贈収賄と戦う英国の役割を明確にし、公正な競争活動を行うための道を示している。時がたてば、倫理規範の価値を高め、コストを低くし、国際舞台での活動を通じて、プラスの効果をもたらすと期待されている。

## 国際活動委員会

### FIDIC News July 2012 抄訳

訳責：国際活動委員会 CB分科会

#### A. 活動 (FIDIC -Activities)

##### A.1 FIDIC アフリカ地域会員協会連合会議 (GAMA) 20周年式典にみるアフリカの活性化 (Africa Upbeat as GAMA Celebrates 20th Anniversary)

4月にザンビアで200人もの代表者や訪問者が一同に会し、アフリカのインフラへの投資の増大への試みに触れ、大いなる盛り上がりを見せた。

国際的な会社とのパートナーリングの機会と同様に、地方のコンサルティング業界のためにより多くの機会が提供された。特別式典にはFIDIC会長が参列し、専務理事によって執り行われた。



#### B. 事業展開 (Business-Development)

##### B.1 20周年を祝うEFCAのひかえめな楽観論 (Cautious Optimism as EFCA Celebrates 20th Anniversary)

今年の会議のテーマ、「エンジニアリング界を発展させる一勝利戦略」は最近のヨーロッパコンサルティング・エンジニア協会連合 (EFCA) の発表「我々の未来は確固たるものになる」に触発されている。



##### B.2 公正管理システム改定

###### (Facelift for Integrity Management)

Model Reps Agreement (海外現地エージェントに従事するとき契約は使用することを推奨) のアップグレードについて、FIDICは、多国間開発銀行を含む幅広い利害関係者と相談した。

この重要な契約は、汚職との闘いの最新動向を考慮

している。コンサルティングエンジニアや他の人が地元の専門家が従事されている海外の仕事を引き受けることに対処するための便利なツールを提供すると見られている。

FIDIC公正管理システム (FIMS) に付属されている文書は、ソウルのFIDIC世界会議に間に合うように利用できるようになる。

##### B.3 FIDICが地域での存在感を強化

###### (FIDIC Regional Presence Boosted)

2012年5月に東京で開催したFIDIC理事会で、改正地域戦略を決定した。これにより、中東、アフリカ、アジアそして南アメリカにおけるより大きなFIDICの存在感に加えて、ヨーロッパコンサルティング・エンジニア協会連合 (EFCA) とのより緊密な協調も期待される。



FIDICのGeoff French会長と経済産業省の厚木進局長

【AJCE】FIDIC会長来日報告、セミナー報告はAJCEホームページ (info@ajce.or.jp) に掲載しております。

##### B.4 US FIDIC セミナー開催

###### (Inaugural Launch of US FIDIC Seminar)

FIDIC/IBCユーザー会議の開会式が、10月2日から3日にかけてニューヨークにおいて行なわれる。



FIDICの活動管理会社であるIBCの協力を得て、建設部門においてFIDIC国際基準の認識を高めること、また北アメリカのFIDIC契約約款ユーザーが、彼らの経験を基にFIDIC契約約款シリーズ活用について協議できることを要望している。詳しくはFIDICウェブサイト。

この抄訳は若手メンバーの翻訳を分科会で監修したものです。



## C. 協会活動(Industry Representation)

### C.1 世界銀行・アメリカ開発銀行との協調の強化 (Enhanced Collaboration with World Bank and Inter-American DB)

アメリカコンサルタント技術者協議会(ACEC)の年次大会と同時に行われたFIDICのワシントン年次視察で、FIDIC会長のGeoff Frenchと専務理事のEnrico Vinkは、調達部門やインフラ部門、環境部門、公正管理部門など、数多くの銀行の部局と広く開かれた議論を交わした。銀行の立場を明確にすると同時に調達や実行の改善策を提案するため、産業界から提起された銀行出資事業に関する多くの問題が取り上げられた。この議論の結果は、産業界と共有された。



### C.2 FIDICはUNEPのシンポジウムで都市について再検討(FIDIC Rethinks Cities at UNEP Symposium)

リオデジャネイロで開かれるRio+20会議に多くの関心が注がれているなかで、FIDICは建設業界のパートナーとの親密な協力を通じて、国連環境プログラム(UNEP)とともに、UNEP-SBCI(持続可能な建設や気候変動イニシアティブ)の特別シンポジウムで「都市の再検討」と題したヨーロッパコンサルティング・エンジニア協会連合(EFCA)-FIDICレポートを公表した。

### C.3 FIDICが支援してUNEP-GIRECがRio+20会議で立上(Launch of UNEP-GIREC supported by FIDIC at Rio+20)

Francois Baillonが代表するFIDICは、UNEPの「資源を有効に活用する都市の建設のための世界イニシアティブ」を立ち上げるために会議に参加し、記者会見では声明も出した。



## D. イメージ (Image)

### D.1 FIDIC 新しいウェブサイト開設 (New FIDIC Website Revealed)

FIDICは新しいウェブサイトを立ち上げた。新しいウェブサイトでは、市場の要求と内部の効率化に対応して、書籍の購入や情報の共



有、研修やその他のFIDICの活動などのオンラインサービスを、より効率的で使いやすいインターフェースで提供している。是非、意見を寄せてほしい。

### D.2 FIDIC100周年記念賞のお知らせ (FIDIC Centenary Awards Reminder)

2013年バルセロナで開催されるFIDIC百周年祭の一環として、過去100年におけるコンサルティング・エンジニアリングの最高の功績を認定し賞賛する。そうすることで、FIDICの100周年を祝うとともに、コンサルティングエンジニアの業績やコンサルティングエンジニアが人々の生活になしてきた貢献を広く知ってもらう。



賞の部門は以下の通りである。

1. 過去100年間の主要建築プロジェクト
2. 過去100年間の主要土木プロジェクト
3. 過去100年間の優れたコンサルティングエンジニア

## E. 公示 (Announcements)

### E.1 ソウル会議で世界の持続性に関する報告書を発表 (Seoul Conference to Launch State of the World Sustainability Report)

持続的開発の中心であるCambridge大学のPeter Guthrie教授の指導のもと、世界中のFIDICメンバーに関わりのある包括的な研究の準備が行われている。報告書は、実用的な手引きであるとともに、異なるプロジェクトの開発段階における全く新しい持続性の考え方や表現方法を提案する。これは、インフラ投資における意思決定を支援し、また、見識ある議論を促進する。

### E.2 世界銀行は基礎的な調達に関する見直しを発表 (The World Bank Announces Fundamental Procurement Review)

世界銀行は、開発に関する調達において、長い間主要な役割を担ってきた。その方針や手続きは時とともに更新(最近では2011年1月)されてきた。一方で、銀行の基礎的な調達モデルの大部分は20年間以上変わっていない。この期間に、世界経済や銀行が関与する国々の情勢、また、銀行のプロジェクトや活動の特性や範囲は大きく変化している。



### **E.3 世界を魅了する FIDIC100 年祭 (FIDIC Centenary Attracts the World)**

産業の歴史において、このすばらしいイベントは、2013 年 9 月にバルセロナで開催される予定であり、その計画は着々と進められている。このイベントでは、"Quality of Life? Our Responsibility" をメインテーマに、人類が直面するグローバルな課題と、提携する組織とともに、それらの課題に対するより良い解決方法について会議する場が設けられる。

## **F. 会員協会新着情報**

### **(News from the Member Associations)**

#### **F.1 スイス 成功の 100 年**

##### **(100 Years of Success in Switzerland)**

高騰する市場環境の中で、2012 年の 5 月にスイス コンサルティング・エンジニア連合 (USIC) は 100 周年の記念を迎えた。FIDIC からは専務理事の Enrico Vink が出席した。旧団体である ASIC はスイスのコンサルティング・エンジニアの利益を後援・発展させる事を目的に、1912 年にローザンヌで設立された。前世紀への祝賀のなかで、USIC は色々なプロジェクトを取り上げた。それは短編の記念映画や機関紙「USIC ニュース」の特別編、またエンジニアリングのテーマ毎に起用された芸術家の作品展示という形で行われた。

#### **F.2 パレスチナにおける FIDIC の活動**

##### **(FIDIC Active in Palestine)**

パレスチナにおける FIDIC の、新しく選出された構成協会がラマラ初の FIDIC 訓練課程を 2012 年 7 月に実施する。そのテーマは「FIDIC の契約規定の実用的な利用について」である。詳細と登録については FIDIC ウェブサイトの「The Event」を参照のこと。

#### **F.3 韓国 技術実習制度の拡大**

##### **(Korean Training Programme Expands)**

2011 年に広範に行われた FIDIC-KENCA 技術実習制度での成功を基に、FIDIC とその加盟協会である韓国コンサルティングエンジニア協会 (KENCA) は、2012 年の計画を更に拡大し、人的資源、財務、誠実さ、持続可能性およびコンサルタント企業へのリスクマネジメントというより広範な FIDIC の訓練モジュールを追加した。この過程の一環として、FIDIC はまた韓国人の資格指導者を評価および認定した。認定された指導者は、彼等独自の権限において訓練を請け負う事が可能となる。

### **F.4 ポーランドにおけるリスク管理 (Risk Management in Poland)**

ポーランドのコンサルティングエンジニア協会である SIDiR は、リスク・マネジメントに関する国際会議を計画しており、その会議は 2012 年 10 月 18, 19 日にワルシャワで開催される予定である。詳細は SIDiR ウェブサイト ([www.sidir.pl](http://www.sidir.pl)) 上で発表される予定である。

### **F.5 オーストラリアの建設環境と議会の会合 (BEMP) (Australian Built Environment Meets Parliament)**

BEMP は、オーストラリアのコミュニティとそれらの建設環境の関係を紹介する国会議員と業界リーダーの間で毎年行われる対話である。それは、国の繁栄に影響を与える経済、社会、環境、ガバナンス問題を探る機会を提示する。このイベント (6 月下旬開催) は、業界団体によって共催される。詳細は Consult Australia, オーストラリア建築家協会, オーストラリア計画研究所, オーストラリア不動産協会, オーストラリアグリーンビル協会に問い合わせして下さい。

### **F.6 FIDIC 賛助会員、Dar Al-Handasah Consultants の拡大 (FIDIC Affiliate, Dar Al-Handasah Consultants expands)**

Dar グループ (レバノンの国際的設計・プロジェクトマネジメントサービス業) は、英国本拠のコンサルティング会社 Currie & Brown を取得した。「この取引により原価管理、プロジェクト管理、建物測量、PFI/PPP サービス、資産管理および他の関連する顧問業務等の特定の専門知識を持った才能のある人間の大集団が Dar グループに加わることになる。」と Dar グループ会長兼 CEO の Talal Shair 氏はコメントした。Dar グループは 1985 年に設立され、現在 44 か国 169 のオフィスで 13,000 人が働いている。Dar グループはアメリカ、ヨーロッパ、アフリカおよびアジアといった重要な市場で一流の設計およびエンジニアリングコンサルタント業も行っている。

## 訃報

### 森村武雄氏の逝去を悼む

AJCE 前事務局長 藤江五郎

森村武雄様の訃報を7月31日に公益社団法人日本コンサルティングエンジニア協会（AJCE）から承りました。平素よりご健勝で気丈なお方だっただけに、信じられぬ思いでした。森村様は設立当初からAJCEの発展に尽力され、副会長、理事、国際活動委員会、倫理委員会委員長など22年の長きに亘り役員を歴任されました。また、国際的には90カ国、150万人のエンジニアを代表する国際コンサルティングエンジニア連盟（FIDIC）で1986年から90年にわたり、日本人初の理事を務めると共に、1989から1990年にわたり同連盟のアジア太平洋地域会員協会連合（ASPAC）議長を務められました。翌1991年のFIDIC東京会議開催に向けては、実行委員会委員長として同大会の実現と実行に多大な貢献をされました。

このように森村様は、AJCE並びにFIDICの運営と発展、更には日本のコンサルタントの国際的地位向上に極めて顕著な功績を残されました。

森村様は青年時代に単身米国にわたり、コンサルティングエンジニアの経験を積まれ、帰国後若くし

て、森村設計事務所を設立されました。コンサルティングエンジニアがビジネスとして確立していない時代でもあり、日本におけるパイオニアとして業務の確立、発展にご尽力をされました。

私がAJCE事務局長（当時）の採用面接を受けた折、FIDIC、AJCEの社会的役割のご説明を頂き、この役割を遂行できる能力の有無を試され、また、責任感の有無をご検証されたことを、昨日のように記憶しております。さらに、採用後、理事会、委員会、FIDIC大会開催中も、いろいろとご指導を賜り、常に原点に立ってのご意見を頂きました。

森村様は、いつも完璧主義を貫き、FIDICにおいては、日本のコンサルティング・エンジニアが業務の規範になることに全力を傾けておられました。森村様はその半生をAJCEの活動に捧げられたと申し上げても決して過言ではありません。

天にまします森村様、生前賜りましたご厚情とご指導・ご鞭撻に感謝申し上げます。安らかにお眠り下さい。

## 事務局報告

### － 1 － 第246回理事会 報告

日 時：平成24年8月7日(火)

14:00～17:00

場 所：AJCE 事務局

出席理事：10名 出席監事：2名

議事(抜粋)：

1. 会員委員会

入会：個人正会員 賦勺 秀樹氏

2. 政策委員会

FIDIC100周年記念賞推薦

3. 国際活動委員会

世界銀行調達調査

契約管理者育成セミナー

4. 技術研修委員会

若手コンサルタント発表会

日豪交換研修2012

FIDIC 大会報告会



若手コンサルタント発表会

### － 2 － 若手コンサルタント発表会

日 時：平成24年8月29日(水)

14:00～18:00

終了後AJCE 夜会

場 所(株)建設技術研究所 会議室

参加人数：41名

内 容：8グループの発表及び表彰

- ・ PTM ワーキンググループ
- ・ 景観ゼミの取り組みについて
- ・ 若手社員が自主的に実施しているコミュニケーション
- ・ 国内部門の若手技術者向け海外研修
- ・ 下水計画管理部・施設部若手勉強会
- ・ CTII 社内勉強会
- ・ 社有地“ おおとの森 ”における里山利用を介した人的交流・人材の育成
- ・ 創発塾スーパー開発コンサルタント育成講座

詳細は本誌のAJCE YP 活動報告をご覧ください。



AJCE 夜会

### － 3 － 第247回理事会 報告

日 時：平成24年10月9日(火)

14:00～17:00

場 所：AJCE 事務局

出席理事：13名 出席監事：2名

議事(抜粋)：

1. 会員委員会

入会：法人正会員

TEC インターナショナル(株)

代表者 宮本 正史氏

2. 総務財政委員会

2013年度事業計画・予算案

3. 国際活動委員会

契約管理者育成セミナー

4. 技術研修委員会

FIDIC 契約セミナー

大学出張講座

5. 技術交流委員会

技術交流セミナー

－ 4 － 日豪交換研修 オリエンテーション

日 時：平成24年10月15日(月)

14：00～17：00

場 所：オリエンタルコンサルタンツ会議室

参加人数：45名

(うち豪州研修生11名)



－ 5 － FIDIC 大会 報告会

日 時：平成24年10月25日(木)

13：30～17：30

場 所：(株)日水コン 本社22階会議室

参加人数：50名

－ 6 － 技術交流セミナー ご案内

日 時：平成24年11月8日(木)

14：00～17：00

場 所：(株)建設技術研究所 13階会議室

テ ー マ：鉄道・環境・上下水道及び交通分野における技術者のイニシャチブ

- ・ 開発コンサルタントから見た国の盛衰
- ・ 生物多様性と環境経営
- ・ 鉄道における早期地震警報の変遷と今後の展開
- ・ トコトン環境にやさしい大江戸上下水道

－ 7 － その他行事予定

平成24年12月11日(火) 第248回理事会

平成25年1月8日(火) 新年賀詞交換会

18：00～20：00 日比谷 松本楼(日比谷園内)

－お問い合わせ先－

各種行事・FIDIC書籍の購入についてはAJCE事務局までお問い合わせください

(公社)日本コンサルティング・エンジニア協会事務局  
事務局長：山下佳彦

〒110-0005 東京都台東区上野3-16-4

(文行堂ビル3階)

Tell：03-3839-8471 Fax：03-3839-8472

E-mail: info@ajce.or.jp HP: http://www.ajce.or.jp/



## 編集後記

今号は、2012年9月9日～12日の3日間、韓国のソウルで開催されたFIDIC2012年次大会についての特集です。『Beyond Green - New Paradigm』という大会テーマの下、グリーン成長や持続的な開発、国際機関との連携強化などについて発表や議論がなされました。

ケンブリッジ大学のPeter Guthrie教授の講演にあった、「コンサルタントこそが、持続可能なインフラ創造の中心的役割を持つべき」という言葉は、コンサルティング・エンジニアの責務の大きさを改めて訴えるものです。ぜひ今号を手に取り、世界から集ったコンサルタント達の熱意に触れてみてはいかがでしょうか。

世界の人口は2011年に70億人を超え、今後もさらに増えることが予想されています。持続可能な開発のために各国が協調し、限られた資源を有効に活用していくことが求められています。ただしその実現には、新しい技術や国家間の枠組みに加えて、まずは市民の意識そして行動を変革しなければなりません。日々のゴミの分別、資源の再利用、無駄遣いの削減。まずは私たち自身の行動を改善していかなければなりません。

ところで改善といえば、今号では掲載記事のレイアウトを工夫し、より見やすくなるように改善を試みています。本会報が、経済成長と環境を調和し持続可能な社会を創造することを目指すグリーン成長への貢献の一助となれば幸いです。

(広報委員 余川達郎 記)

会報記事はAJCE ホームページからダウンロードできます。 <http://www.ajce.or.jp>

## AJCE 会報 秋号 Vol.36 No.2

2012年11月1日発行

発行 公益社団法人 日本コンサルティング・エンジニア協会 (AJCE)  
東京都台東区上野3丁目16番4号 文行堂ビル3F  
TEL 03-3839-8471 FAX 03-3839-8472  
URL <http://www.ajce.or.jp/> E-mail: [info@ajce.or.jp](mailto:info@ajce.or.jp)

編集 広報委員会

デザイン・レイアウト 株式会社 大應  
東京都千代田区内神田1-7-5

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

## AJCE とは (AJCE 定款 第3条 目的 より)

技術に立脚した公正なコンサルティング・サービスを提供する知的専門家(以下「コンサルティング・エンジニア」という。)の品位の確立・技術の向上・国際連携の促進を図り、海外コンサルティング・エンジニアとの技術交流およびその成果の普及に関する事業を行い、コンサルティング・エンジニアの技術の発展と科学技術の振興を通して広く社会に貢献することを目的に活動しています。

## AJCE 沿革

|                  |                                      |
|------------------|--------------------------------------|
| 1974 (昭和49) 年 4月 | 日本コンサルティング・エンジニア協会 設立                |
| 10月              | 国際コンサルティング・エンジニア連盟 (FIDIC) 加盟        |
| 1975 (昭和50) 年10月 | FIDIC 加盟記念大会 開催 (東京)                 |
| 1977 (昭和52) 年 8月 | 科学技術庁 (現 文部科学省) より社団法人として承認される       |
| 1991 (平成 3) 年 9月 | FIDIC 東京大会 開催                        |
| 2004 (平成16) 年 5月 | AJCE 創立 30 周年記念シンポジウム 開催             |
| 2012 (平成24) 年 4月 | 公益社団法人へ移行<br>日本コンサルティング・エンジニア協会に名称変更 |

## 会員一覧 (2012年6月18日現在)

### (法人正会員 36社)

株式会社 Ides  
秋山技術士事務所  
株式会社 アンジェロセック  
株式会社 エヌジェーエス・コンサルタンツ  
OYO インターナショナル株式会社  
有限会社 大塚エンジニアリング  
大本俊彦建設プロジェクト・コンサルタント  
株式会社 オリエンタルコンサルタンツ  
基礎地盤コンサルタンツ株式会社  
有限会社 クープラス  
黒澤 R & D 技術事務所  
株式会社 建設技研インターナショナル  
株式会社 建設技術研究所  
国際航業株式会社  
創造工学研究所  
田中宏技術士事務所  
中央開発株式会社  
株式会社 社長大  
電気技術開発株式会社  
株式会社 東京設計事務所  
株式会社 東光コンサルタンツ  
東電設計株式会社  
長友機械技術士事務所  
株式会社 日水コン  
二宮技術士事務所  
日本工営株式会社  
株式会社 日本構造橋梁研究所  
株式会社 日本港湾コンサルタント  
日本シビックコンサルタント株式会社  
パシフィックコンサルタンツ株式会社  
早房技術士事務所

有限会社 樋口コンサルタント  
プラント設計株式会社  
ペガサスエンジニアリング株式会社  
株式会社 森村設計  
八千代エンジニアリング株式会社

### (賛助会員 6社 14名)

株式会社 石垣  
株式会社 神鋼環境ソリューション 東京支社  
清水建設株式会社  
水ing 株式会社  
東日本高速道路株式会社 (NEXCO 東日本)  
メタウォーター(株)

井口 直樹 (長島・大野・常松法律事務所)  
大谷 一人 (日揮株式会社)  
大場 邦久 (大成建設株式会社)  
海藤 勝 (Trett Consulting)  
加藤 武 (社) 海外建設協会  
草柳 俊二 (高知工科大学)  
小泉 淑子 (シティユーワ法律事務所)  
サイモン バレット (シモンズ・アンド・シモンズ  
外国法事務弁護士事務所)  
斎藤 創 (西村あさひ法律事務所)  
佐久間 襄  
宅間 朗 (アクセンチュア(株))  
竹村 陽一  
丹生谷 美穂 (渥美坂井法律事務所・外国法共同事業)  
藤江 五郎 (A&G OFFICE)

### (個人正会員 161名)

(五十音順)



FIDIC Member Association



<http://www.ajce.or.jp>